

平成26年度 研究紀要

夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒の育成
～串間市ならではのキャリア教育の推進活動を通して～



串間市教育研究所

はじめに

平成26年度、串間市教育研究所では、研究主題を「夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童・生徒の育成」、副題を「串間市ならではのキャリア教育の推進活動を通して」と設定し、研究に取り組んできました。

串間市では、平成20年度から「学力向上」と「地域に貢献できる人材の育成」を目指した小中高一貫教育に取り組んできました。その中でも、「生きる力」を育むための柱になるのが「キャリア教育」と考え、平成24年度より3年間研究を進めてきました。

1年目は、キャリア教育の実践の場として中核となる特別活動、特に、学級活動に焦点を当てて研究を進めました。そして、小・中・高等学校の発達段階を踏まえた系統表を作成するとともに、キャリア発達を促す学級活動の在り方について有意義な研究を進めることができました。

2年目は、「キャリア教育の視点」をもとに、各教科等の学びを意図的に関連付けた全体構想を作成し、研究授業を行いながら、キャリア教育における各教科等の指導の在り方を究明する実践的な研究に努めてきました。さらに、キャリア教育の概要や研究を通して整理したキャリア教育の進め方を、教職員向けのリーフレットにまとめ、共通理解を図りました。

本年度は、過去2年間の成果及び課題を踏まえて、串間市が掲げる「つなぐ・つなげる教育」を目指し、学校全体や学年間の「縦の連携」を図るための、組織的かつ系統的な串間市ならではのキャリア教育について研究を進めてきました。具体的には、「学校生活アンケートによる分析及び考察」と、「アンケートを活かしてのキャリア教育全体プログラムづくりと授業実践」に取り組んできました。

この研究紀要は、串間市のキャリア教育の発展を念頭に、研究所員が研究授業と協議を積み重ね、児童生徒の姿をつぶさに見据えたなかから見えてきた成果の一端をまとめたものです。

この紀要が、今後、串間市の子どもたちのキャリア教育を学校レベル、個人レベルで推進するのに役立つ内容になっていると確信しています。各学校においては、教育研究所の研究成果を一人一人の先生方が、また学校組織として活用し、児童生徒一人一人に学習の意義を感じさせながら、社会的・職業的自立を促していただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、多用な中に情熱をもって取り組んでいただいた研究員の先生方やお力添えをいただいた関係小・中学校の校長先生方に心から感謝申し上げます。

平成27年3月
串間市教育委員会
教育長 土肥 昭彦

目次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由		
III	研究目標	2
IV	研究仮説		
V	研究構想		
VI	研究内容	3
	1 研究の方向性		
	2 学校生活アンケートの実施		
	(1) 課題の把握		
	(2) 分析・考察について	4
	3 「キャリア教育全体プログラム」の作成	5
	(1) 「キャリア教育全体プログラム」について		
	(2) 「キャリア教育全体プログラム」を作成する目的について	6
	(3) キャリア教育担当者会の実施		
	4 「キャリア教育全体プログラム」作成研修の実際	7
	(1) 実態の把握から焦点化した基礎的・汎用的な能力の決定まで		
	(2) 題材決定から全体構想作成まで		
	(3) 研修の成果と課題		
	5 キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践	8
	(1) 小学校での実践（第3学年 理科）		
	(2) 小学校での実践（第5学年 国語科）	10
	(3) 小学校での実践（第6学年 算数科）	12
	(4) 中学校での実践（第2学年 学級活動）	14
	(5) 中学校での実践（第2学年 英語表現科）	16
VII	成果と課題	18
	○ 引用・参考文献		
	○ 研究同人		
【資料】			
	○ アンケート、チェックシート	19
	○ アンケート結果・分析	25
	○ 全体プログラム、全体構想（年間指導計画）	27
	○ 串間市教育研究所研究発表会における説明資料（プレゼンテーション）	30
【研究を振り返って ～研究所員から～】			
		38

I 研究主題

夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童・生徒の育成
～ 串間市ならではのキャリア教育の推進活動を通して ～

II 主題設定の理由

日本の様々な分野において構造的な変化が起こる「知識基盤社会」が到来し、情報化・グローバル化・少子高齢化などにより、子どもをとりまく環境もめまぐるしく変化している。この社会環境の変化は、子どもにとって将来を考える上で理想的なモデル（大人）が見つけづらい、自分の将来を描きにくいなどの問題をもたらしている。そのため、学生の立場から就業者の立場への移行がスムーズに行えない若者や、目的をもった進路選択や将来計画が希薄なままに進学したために、進路変更をしなければならない学生が増加し、社会問題にもなっている。こうしたことを踏まえ、変化の激しい社会を生き抜く力を持ち、様々な課題に柔軟に対応できる職業的・社会的に自立した子どもを育成するキャリア教育の推進が強く求められている。

串間市では、「学力向上」と「地域に貢献できる人材の育成」を目指して、平成20年度から小中高一貫教育をスタートさせ、くしま学や読書教育などの取組を通して、校種間の連携を深めてきた。キャリア教育に関しても、キャリア教育部会を設置し、キャリア教育に関する児童・生徒アンケート調査や、手引書の作成などに取り組んできた。

小中高一貫教育の組織にも位置付けられている本研究所では、平成24年度よりキャリア教育の研究を行っている。一昨年度は、キャリア発達を促す「学級活動の指導の在り方」を中心に研究し、串間市におけるキャリア教育の全体構想、学級活動におけるキャリア発達の課題を基にした指導内容や能力の系統表、発達段階を踏まえた学級活動の授業の在り方について提案することができた。昨年度は、教職員がキャリア教育についての理解を深めるためのリーフレットづくり、また、「キャリア教育の視点」を基に、体験活動を中心に各教科等の学びを意図的に関連付けた全体構想を作成し、授業を実践することができた。しかし、昨年度の研究内容が市全体の教職員に普及し、キャリア教育が十分に推進されているとは言えない状況である。児童・生徒のキャリア発達の実態を見ながら、小中高の校種間連携だけでなく学校全体また学年間の「縦の連携」を図るためにも、各学校で組織的かつ系統的なキャリア教育の実践をいかに推進していくかが課題として挙げられた。

そこで、今年度も、キャリア教育の視点を生かした授業改善を通して、夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童・生徒の育成を図ることとした。そのために、昨年度の研究を発展させ、縦の連携の強化を目指し、次の2点を軸に研究を進めていく。

一つ目は、昨年度作成した学校生活アンケート（小学校低学年・小学校高学年・中学校高等学校・教職員）を利用して、串間市全体の児童・生徒の実態を把握することである。本市では小規模校の学校が多いため、市全体でアンケートをとり客観的な資料で分析を行う必要がある。また、児童・生徒の実態を把握し分析することでキャリア教育の目標等を明確にしたり、教職員がアンケートに答えることでキャリア教育に対する意識を高めたりでき、各校の教育活動がさらに充実するであろうと考えた。

二つ目は、アンケートの結果を受けて、目指す児童・生徒像を焦点化し、各学校で「キャリア教育の視点」を基に、児童・生徒の心を揺さぶる体験を中心に各教科等の学びを意図的に関連付けた「キャリア教育全体プログラム」を全職員で作成することである。このことにより教職員がキャリア教育の有用性を実感し、共通理解・共通実践することで、児童・生徒の学びの質が高まり、児童・生徒は学習の意義を見いだしたり、学習意欲が向上したりするであろうと考えられる。

これらの取組を継続することにより、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力を身に付

けさせることができる。さらに、子どもたちが、自己の将来や就きたい職業、生き方について深く考えることにもつながり、現在の各教科や特別活動等における学習を自分の将来に役立つと考え、主体的に学校生活を送るようになっていくと思われる。また、「学ぶこと」の意義を自覚した児童・生徒は、生涯を通して、自分の将来につながる「今」を充実させるために、現在をどのように生活すればよいか常に考え、実行できるようになるとと思われる。そのような社会的にも職業的にも自立し、自分らしい生き方ができる人格の形成を支援する教育を目指し、本主題を設定した。

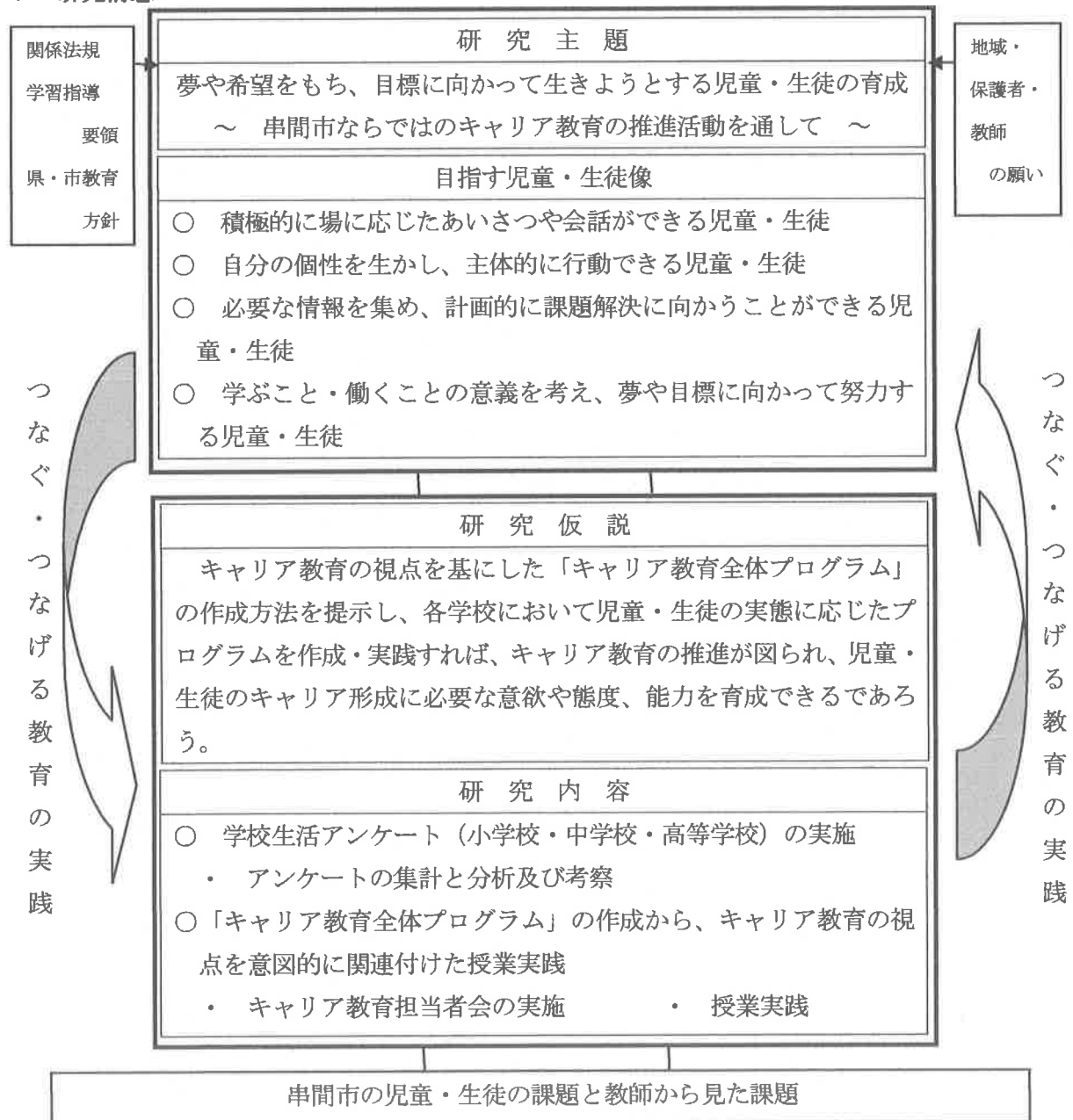
III 研究目標

夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童・生徒の育成を図るために、児童・生徒の実態に応じたキャリア教育推進の在り方を究明する。

IV 研究仮説

キャリア教育の視点を基にした「キャリア教育全体プログラム」の作成方法を提示し、各学校において児童・生徒の実態に応じたプログラムを作成・実践すれば、キャリア教育の推進が図られ、児童・生徒のキャリア形成に必要な意欲や態度、能力を育成できるであろう。

V 研究構想



VI 研究内容

1 研究の方向性

今年度は、昨年度の課題「キャリア教育の視点をもった授業を広げていくこと」、「核となる体験活動を位置付け、児童・生徒の発達段階に応じた系統的な指導の研究を深めていくこと」を工夫・改善していくために、キャリア教育を個人レベルの実践から組織レベルに引き上げることを研究内容とした。

2 学校生活アンケートの実施

(1) 課題の把握

昨年度、本研究所では文部科学省の「キャリア教育の手引き」を基に、リーフレット「キャリア教育の道しるべ」を作成した。その際、児童・生徒が日常生活を振り返り、また、キャリア教育ではぐくむ力、基礎的・汎用的能力（本市では、かかわる力・みつめる力・解決する力・えがく力と分かりやすい言葉にした）の課題を把握するために、アンケートを実施した。

アンケートは、市内の全小学校・中学校・高等学校の児童・生徒及び教職員を対象とした。すべての児童・生徒を対象としたことで、串間市の子どもたちが抱える発達段階による課題を明確化することにした。また、すべての学校で実施することで、各学校や地域のキャリア発達の課題を把握することにした。

教職員用のアンケートには「キャリア教育を意識しながら指導していますか。」「キャリア教育の道しるべを活用していますか。」という内容を追記して、教職員の自己評価や啓発にも活用した。上記の質問において、4段階評価で中学校教職員の結果を平均すると、それぞれ2.9ポイントと1.8ポイントとなった。



【リーフレット「キャリア教育の道しるべ」】

学校生活チェックシート～中学校教職員用～

氏名()

子どもたちの様子を見て、当てはまると思われる数字(○)をつけてください。 ※4段階で評価する
 (4) ほとんどできている 3) まあまあできている 2) あまりできていない 1) ほとんどできていない

No.	質問	4	3	2	1
1	適切な言葉づかいで、相手や場面に応じたあいさつや返事ができる。				
2	自分と違う意見を受け入れながら、自分の考えを適切に伝えることができる。				
3	周りの人に配慮しながら、積極的によい人間関係を築こうとしている。				
4	人のよさや気持ちは尊重しながら、固くして仕事や活動することができる。				
5	グループ活動で、組織あるいはまとめ役となって、他の意見をまとめながら活動することができる。				
6	自分の長所や強さを理解し、自分を大げにできる。				
7	自分の個性や興味・関心を生かした活動や参加ができる。				
8	自分で進んだことや行なったことは、自分で責任をもつことができる。				
9	気持ちの乗らない時や、あきらめる気力に乏しい困難に直面しても、自分ができることは取り組むことができる。				
10	自分の欠点に気づき、改善しようとする努力することができる。				
11	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組むことができる。				

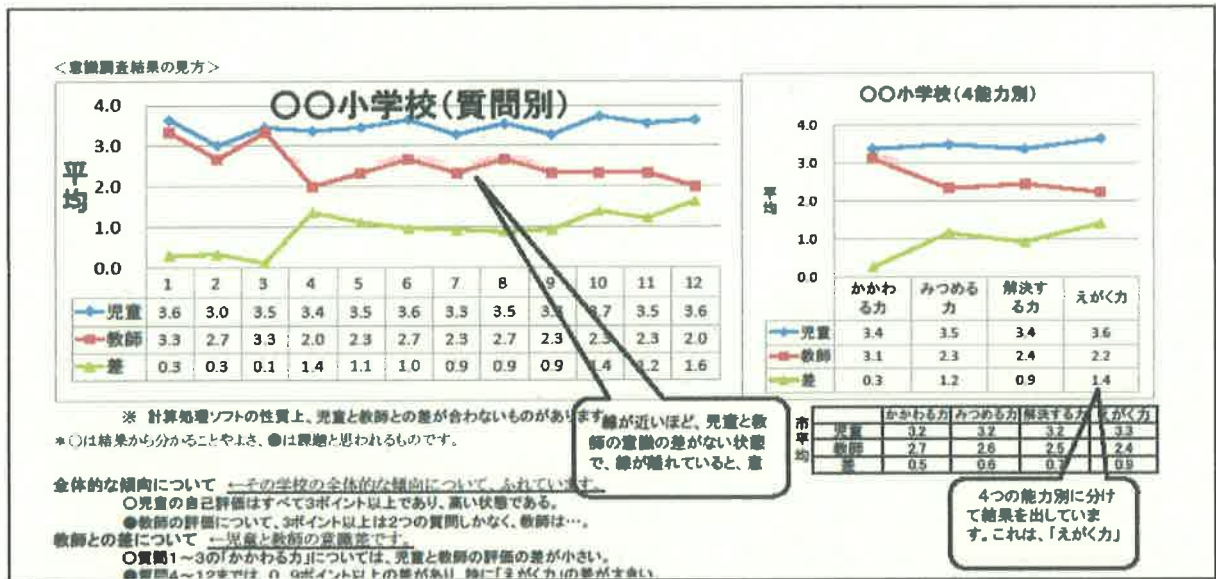
【学校生活アンケート（中学校教職員用）】

市全体の平均	
22	あなたは、キャリア教育を意識しながら指導していますか。
23	あなたは、昨年度、市教育研究所が配付した「キャリア教育の道しるべ」を活用していますか。
市全体の平均	

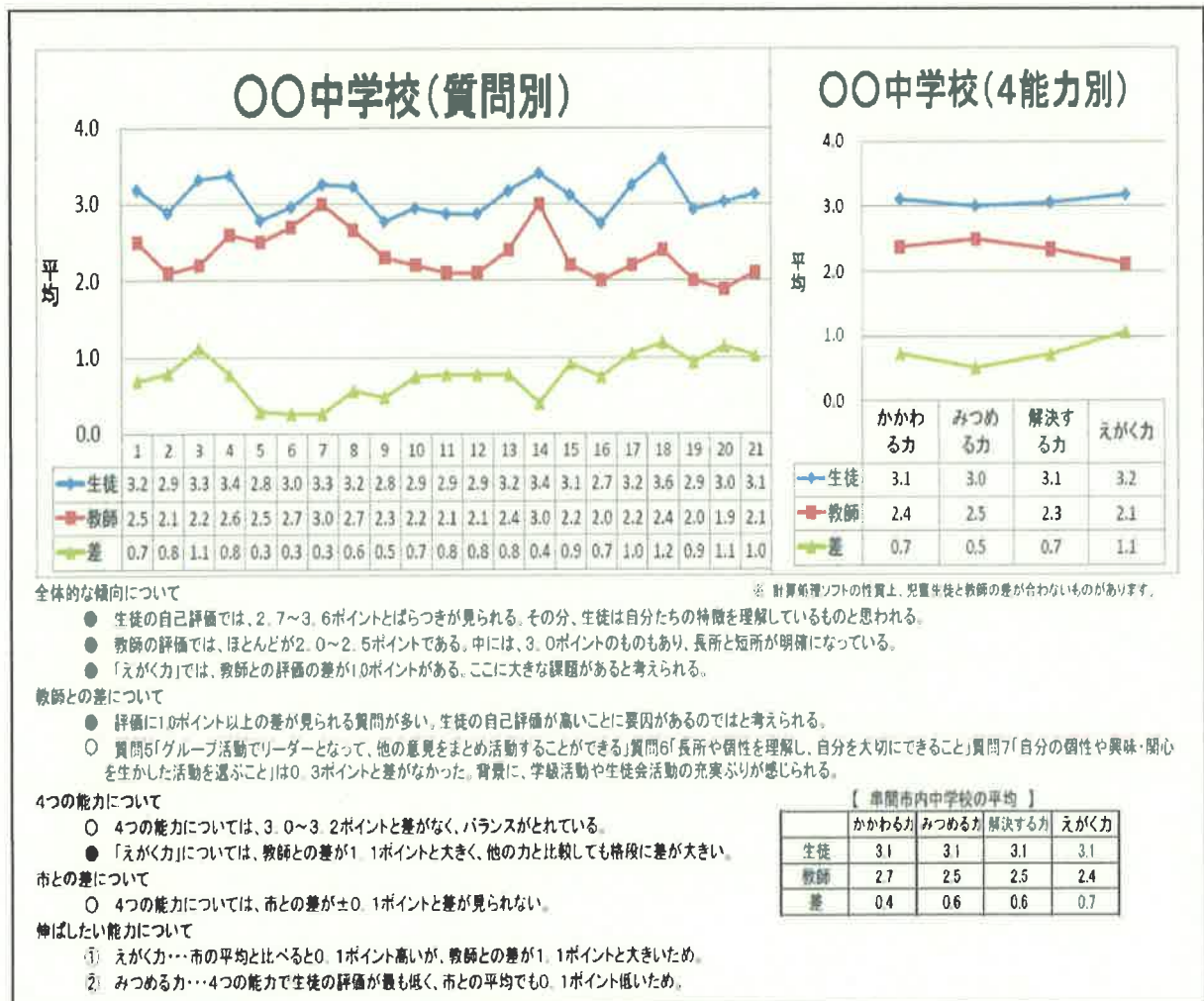
【学校生活アンケート集計結果より】

(2) 分析・考察について

分析表は、小中高の18校、そして、市全体の小学校及び中学校ごとにまとめたものを作成した。データをグラフ化して見やすくするとともに、小規模校ではデータが不足するので、本市全体の結果と比較できるようにした。また、児童・生徒の評価だけでなく、教職員の評価を入れることで、より客観的な分析ができるようにした。



【分析結果の見方】



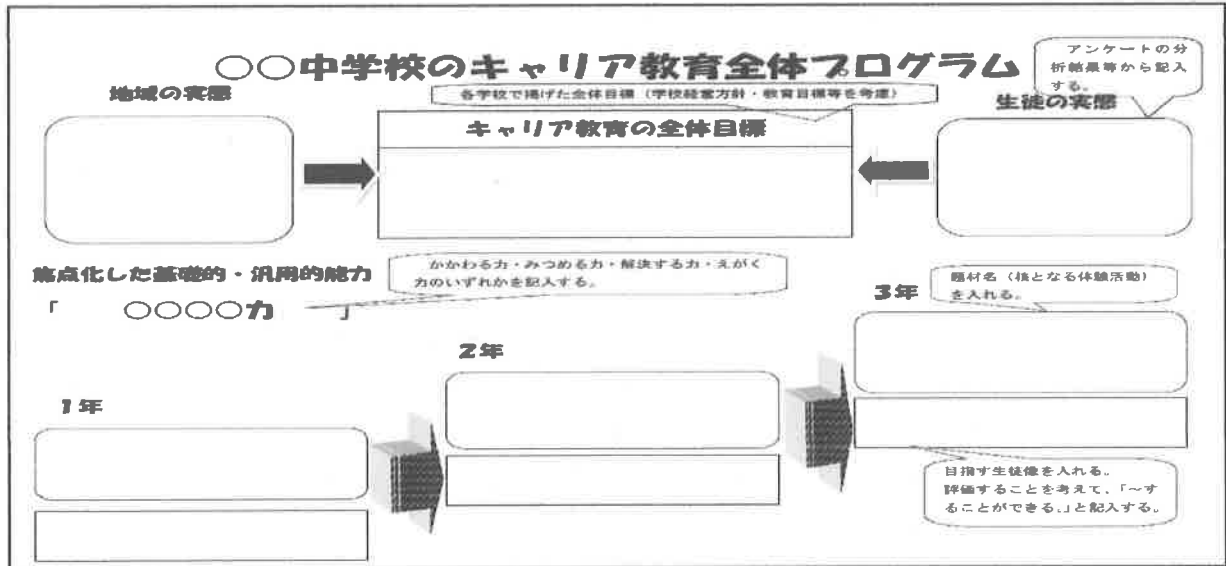
【分析及び考察の実践例】

3 「キャリア教育全体プログラム」の作成

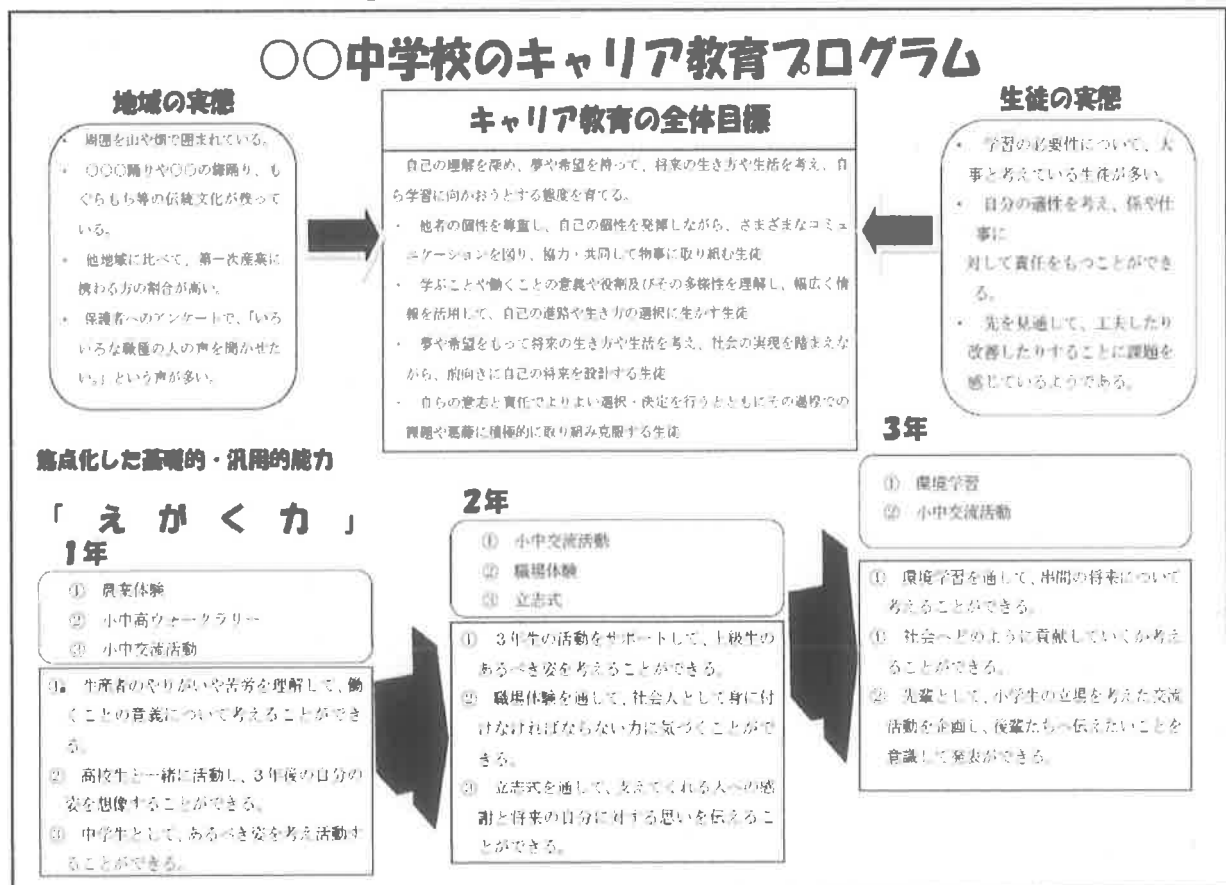
(1) 「キャリア教育全体プログラム」について

各学校で作成しているキャリア教育の全体構想を、より簡潔で明確にしたものを「キャリア教育全体プログラム」と命名した。作成の手順は以下のようにした。

- ① 地域・児童・生徒の実態を基に、キャリア教育の全体目標を設定する。
- ② アンケートの結果で、課題とした基礎的・汎用的能力を焦点化する。
- ③ 「くしま学」を中心とした体験活動を整理する。
- ④ 目指す児童・生徒像を設定する。 ※ 「～することができる」と具体的に書く。



【「キャリア教育全体プログラム」(中学校用)】



【「キャリア教育全体プログラム」(実践例)】

(2) 「キャリア教育全体プログラム」を作成する目的について

この全体プログラムを、全職員で作成することにより、児童・生徒の生活を見つめ直して課題を把握する。目指す児童・生徒像を共有することで、同じ目的でキャリア教育の視点からの問い掛けを行うことができ、より系統的で計画的なキャリア教育の実践が行われると考えた。

また、ほかの目的として、

- ① 児童・生徒へ教室や廊下等に示して、「自分もあんなことがしたい。」といった思いや願いにつなげる。
- ② 保護者や地域・企業の方に示して、協力や要請の趣旨説明に活用する。
- ③ 異校種の先生に示して、キャリア発達の段階や学習内容を説明できる。

以上のような活用方法も考えられる。

(3) キャリア教育担当者会の実施

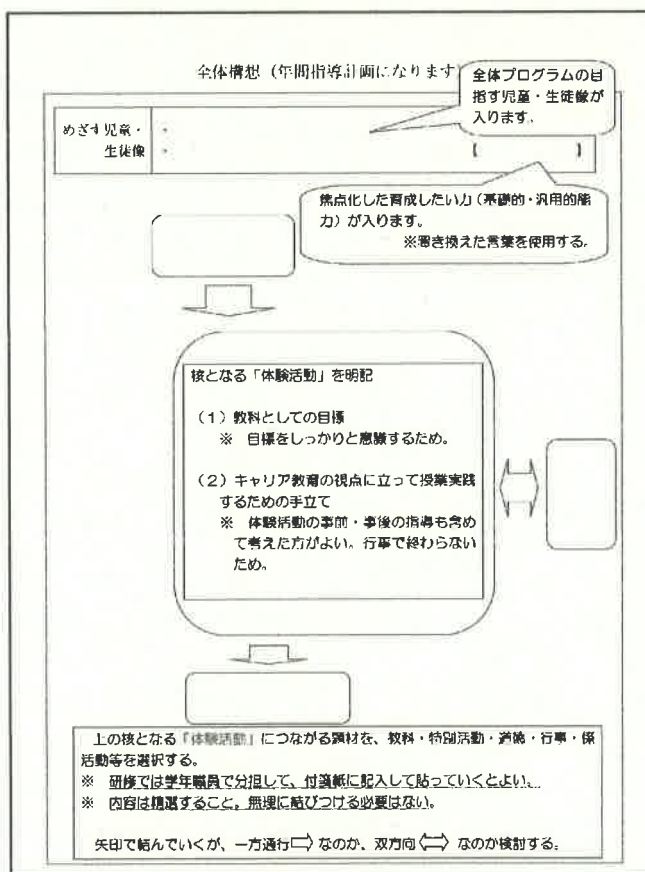
キャリア教育を推進するためには、各学校での研修活動を充実していく必要があると考え、市内の各小学校・中学校のキャリア教育担当者を集め研修会を行った。キャリア教育の必要性や全体プログラムから全体構想（年間指導計画）を作成するまでの手順を確認した。また、演習のグループは、小中連携を考慮して中学校区で編成した。



【キャリア教育担当者会の演習】

キャリア教育の視点に立った授業を実践するためには、全体プログラムを作成しただけでは、キャリア発達を促すための授業は実践できない。そこで、核となる体験活動と、各教科や道徳、特別活動等を、どうつなげていくかまで、全職員で検討する必要がある。核となる体験活動を実施しただけで終わるのでなく、事前指導や事後指導の手立ても考えていくように確認した。

研修後の先生方の感想では、「キャリア教育の意義が理解できた」、「小中合同で話し合い、演習ができてよかった」という意見が多かった。学校間でキャリア教育の実践状況も異なり、担当者としての悩みを共有し、改善するための手立てにつながったと考える。



【全体構想作成の流れ】

4 「キャリア教育全体プログラム」作成研修の実際

キャリア教育担当者会を受け、キャリア教育担当者は、各学校において「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成する研修を実施した。昨年度、本研究所が提示した、リーフレット「キャリア教育の道しるべ」を活用し、串間市におけるキャリア教育について確認をした後、作成作業を行った。以下は北方小学校での実践例である。



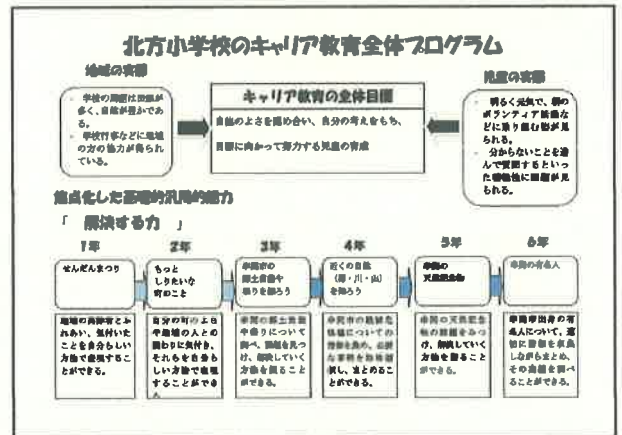
【職員研修の様子】

- (1) 実態の把握から焦点化した基礎的・汎用的な能力の決定まで
まず、地域の実態・児童の実態について話し合いを行った。校内に掲示をしたり、保護者や地域・企業の方に提示したりすることを考慮し、北方小学校の実態を端的に表すこととした。同様に、キャリア教育の全体目標についても、能力別ではない大きな目標を一つ掲げることで、シンプルに一目で分かるものとした。次に、焦点化した基礎的・汎用的能力について協議した。

その際、学校生活アンケートの分析表「四つの能力」の結果や本研究所が洗い出した「伸ばしたい能力」についての分析結果を基に話し合い、北方小学校においては、『解決する力』に焦点化して「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成することとした。

- (2) 題材決定から全体構想作成まで

題材については、核となるような体験活動が位置付けられている教科等の中から決定することとした。第3学年以上については、「体験活動が多く含まれ、他教科での学習を生かしやすい。」「本校が伸ばしたい解決する力を発揮できる場面が多い。」という意見から、くしま学を主な単元とした。その後、目指す児童像を各学年で検討し、各教科等における年間指導計画を参考に全体構想を作成した。

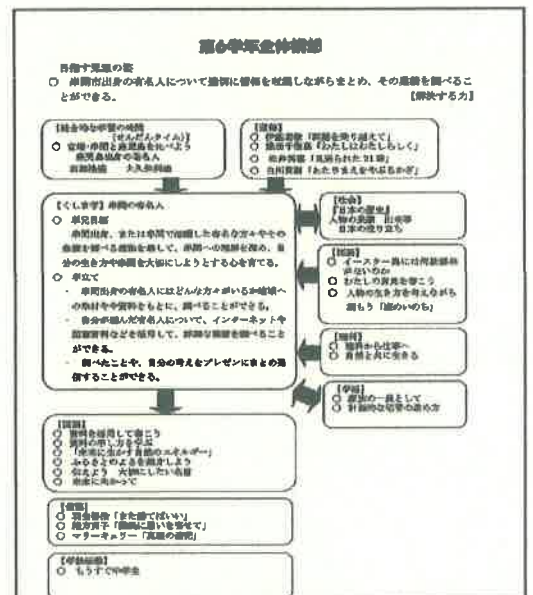


【キャリア教育全体プログラム】

- (3) 研修の成果と課題

研修後に、四段階で評価を行うアンケートをとった。「キャリア教育全体プログラムの作成の方法は分かりやすかったか。」という設問では、100%が肯定的な回答をした。自由記述では、「キャリア教育全体プログラムや全体構想の作成法が簡潔に示してあり、理解しやすかった。」「シンプルでよかった。」という意見が見られた。また、「日頃から活用できるキャリア教育全体プログラム・全体構想ができた。」という感想もあった。

成果として、今回のキャリア教育全体プログラム作成研修を通して、すべての職員がキャリア教育について意識し、その視点を生かした授業を展開しようという共通理解ができた。課題として、学校ごとの課題だけでなく、発達段階も考慮した身に付けさせたい力の焦点化ができることよという意見も寄せられた。



【全体構想の例】

5 キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践

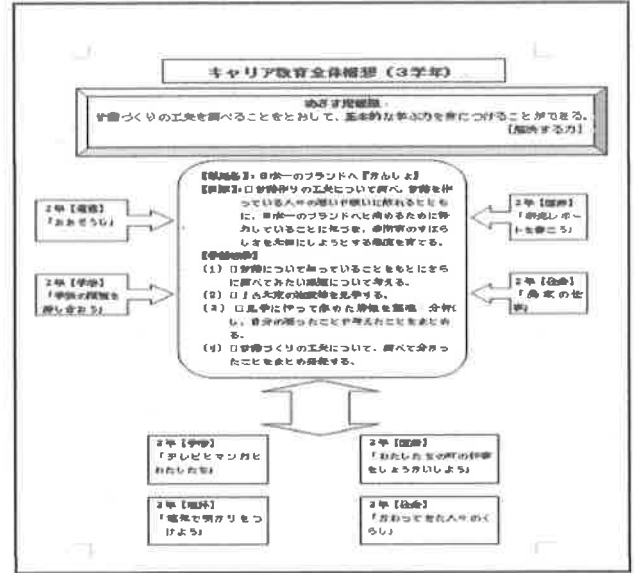
(1) 小学校での実践 ～第3学年～

ア 授業教科の決定

本実践では、「キャリア教育全体構想」に従って、くしま学「日本一のブランドへ『かんしょ』」の学習をとおして、本校のキャリア教育における課題である「解決する力」を育成したいと考えた。そこでまず、右図の中から実験や観察を基に「解決する力」を関連的に育成するために、理科学習「電気で明かりをつけよう」の実践授業を行うことにした。

イ 育成したい具体的な力の設定

「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を基に、目指す児童の姿を「甘藷づくりの工夫を調べることをとおして、基本的な学ぶ力を身に付けることができる」とした。これらの力を育成していくために、理科の単元「電気で明かりをつけよう」において、実験をして調べ、わかったことをまとめる学習過程をふまえた授業を行った。



【「解決する力」をはぐくむための全体構想】

ウ 授業におけるキャリア教育の視点の作成

この実践では、「解決する力」を育むため、理科の単元「電気で明かりをつけよう」におけるキャリア発達支援の流れを作成した。キャリア教育の視点からの問いを「わからないときは、繰り返してやってみて、考えよう。」とすることで、実験や観察を繰り返して、考えれば、わからないことが発見でき、問題を解決できる学習態度の大切さに気付くのではないかと考えた。

エ 授業実践「理科」

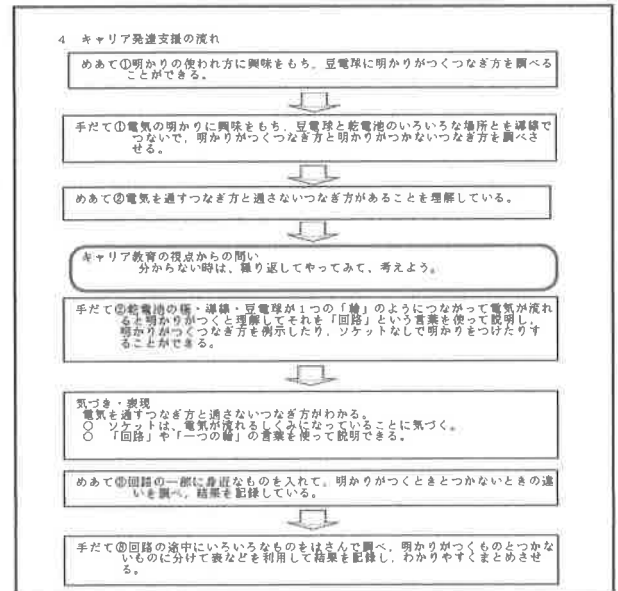
(ア) 単元名「電気で明かりをつけよう」

(イ) 本時の目標 (4/6)

- 豆電球が点灯するときとしないときを比較して、それぞれの場合について豆電球、乾電池、導線、豆電球のへそ、横などという言葉を用いて説明することができる。

【科学的な思考・表現】

(ウ) 学習指導過程



【キャリア発達支援の流れ】

学習内容および学習活動	指導上の留意点 ◎キャリア教育の視点
1 本時の学習を話し合う。	ソケットを使わなくても明かりをつけることができるのだろうか ○ 模擬実験をして意図的に取り組めるようにさせる。

2 示されたつなぎ方の中であかりがつくのはどれか予想を立て、その理由も発表させる。	○ 自分なりの予想をさせ、考えをもたせる。
3 明かりがつくかつかないか実験し、結果を発表する。	○ 明かりがつく時・つかない時のつなぎ方の特徴に印をつけさせる。
4 結果を聞いて、どこがつながっていれば明かりがつくかを班で話し合う。	◎ <u>考えが出ないときは、繰り返し実験をさせる。</u>
5 班で話し合ったことをボードに書いて発表し、聞いている人は質問する。	○ ソケットの中の様子を示すことで回路になっていることに気付かせる。
6 本時の学習したことをまとめる。	○ ソケットを使った時を思い起こさせ、「一つのわ」や回路の言葉を補足し、教師と一緒にノートにまとめさせる。

オ 授業実践後の指導

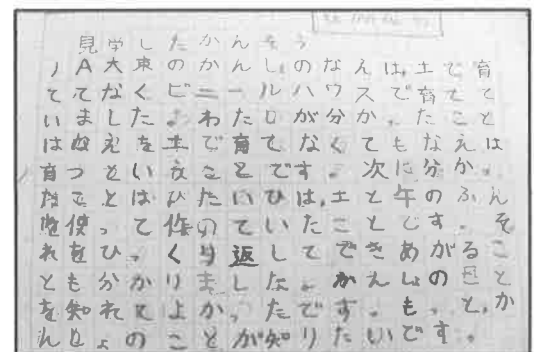
理科において、キャリア教育を意識した授業を行った後、核となる体験活動であるくしま学の「日本一のブランドへ『かんしょ』」の学習を行った。JA大東への見学の前は、副読本や資料で甘藷づくりの工夫を調べるが、見学で聞いたことでわからないことや自分たちの学習問題についても尋ねるようにした。説明の内容は、子どもたちの予想以上で「そうだったのか。」「くわしいことがわかった。」という声が聞かれた。



【くしま学の授業の様子】

カ 実践の考察

- 児童は、なぜソケットを外すと明かりがつかなくなるかを解明するには時間がかかっていた。そこで、キャリア教育の視点からの問いである「わからないときは、繰り返してやってみて、考えよう。」という指示を、学習の中で繰り返すことで、ソケットの中の仕組みに手がかりがあることを発見することができた。



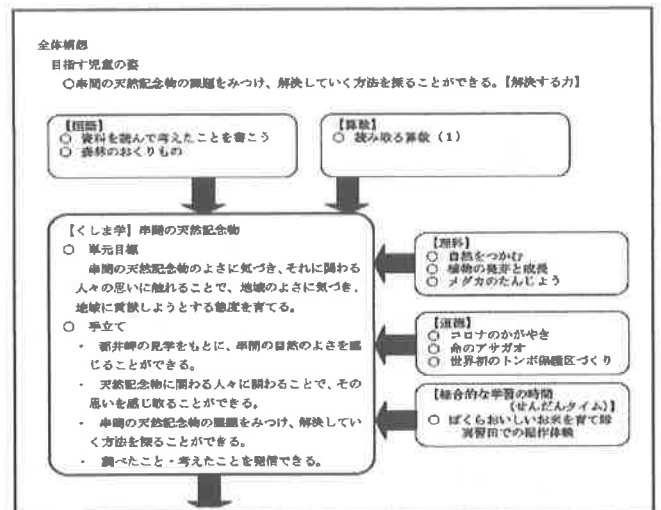
【くしま学の授業後の感想】

- 理科の学習では、実際に実験を通して結果がわかり、学習問題を解決することができる。また、核となるくしま学の活動でも実際に見学やインタビューをとおして、さらに理解を深めることになった。これは、「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成、活用したことで結果的に、理科とくしま学がキャリア教育を通じてリンクし、児童の「解決する力」を高めることができた。

(2) 小学校での実践 ～第5学年～

ア 授業教科の決定

本実践では、「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」に従って、意図的にキャリア教育の視点と関連付けた授業実践を行うこととした。本校の課題が「解決する力」となっており、その力をつけるため、「全体構想」の中から、くしま学につながる国語科の授業を行うこととした。

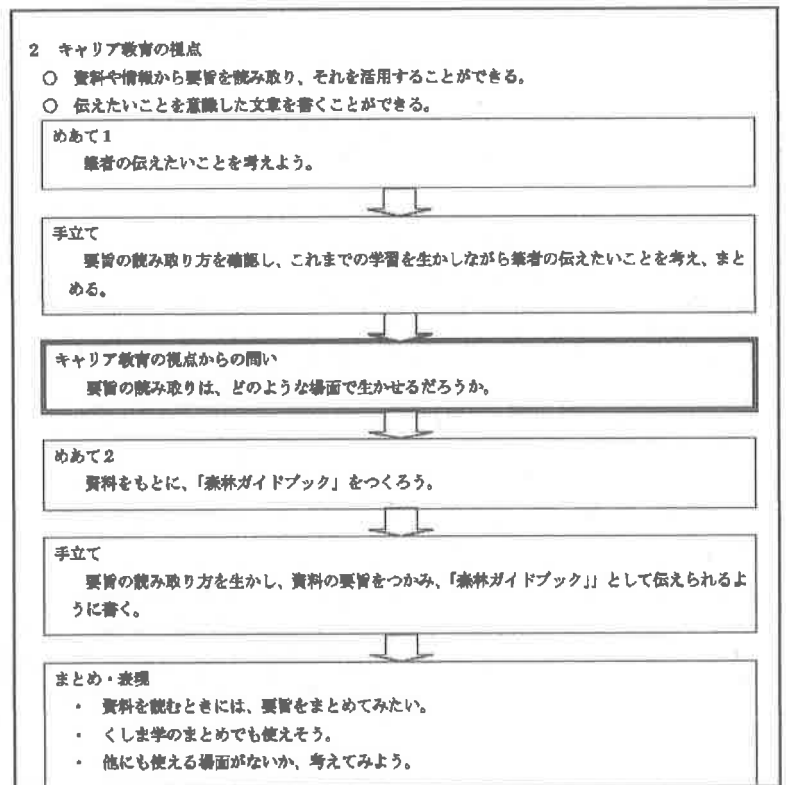


イ 育成したい具体的な力の設定

「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を基に、目指す児童の姿を「串間の天然記念物 【「解決する力」をはぐくむための全体構想】の課題を見つけ、解決していく方法を探ることができる児童」とした。くしま学の「串間の天然記念物」のよさを伝えるためには、そこに関わる人々の言葉にも目を向けることが必要である。児童は、それらの情報を理解・整理し、処理する活動を行っていく。これらの力を育成していくために、国語科の単元「森林のおくりもの」において要旨をとらえる学習を行うこととした。

ウ 授業におけるキャリア教育の視点の作成

この実践では、「解決する力」を育むため、国語科とくしま学を意図的に関連付けたキャリア発達支援の流れを作成した。キャリア教育からの視点からの問いを「要旨の読み取りは、どのような場面で生かせるだろう。」とすることで、くしま学での資料を読み取る場面やまとめの場面で使えるのではないかと児童の考えを引き出そうと考えた。「キャリア教育の視点からの問い」を設定することで、くしま学の学習内容を意識した授業が展開できるようにした。



【キャリア発達支援の流れ】

エ 授業実践「国語科」

(ア) 単元名「森林のおくりもの」

(イ) 本時の目標(4/9)

○ 結論部分を読んで、文章の要旨をまとめ、題名の工夫について考えることができる。

【関心・意欲・態度】【読むこと】

(ウ) 学習指導過程

学習内容および学習活動	指導上の留意点 ◎キャリア教育の視点
1 前時の振り返りをする。	○ 前時の内容を振り返り、森林のおくりものの内容を確認する。
2 本時のめあてを知る。	◎ 筆者の伝えたいことを考えよう。(要旨) ○ 結論の部分を読み、どのような内容になっていたか、確かめさせる。
3 教科書を音読する。	○ 結論の部分を読み、どのような内容になっていたか、確かめさせる。
4 森林のおくりものは誰から送られたものか考える。	○ おくりものの受け手についても考えさせる。 ◎ <u>近くの児童で協力して課題を解決する。</u> ○ 「わたしたち」には、児童自身も含まれることに気付かせる。
5 結論の部分から要旨をまとめる。	○ キーワードにラインを引き、それを活用させる。 ◎ <u>筆者の伝えたいこと(要旨をまとめること)は、国語以外にも使えるのか考えさせる。</u>
6 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	○ 森林ブックガイドを作っていくことを伝える。

オ 授業実践後の指導

国語科において、キャリア教育を意識した授業を行った後、核となる体験活動である、くしま学の「串間の天然記念物」を行った。インターネットで、都井岬に関わっている人々についても調べ、発表を行った。その際、ホームページをそのまま写すこれまでの方法ではなく、要旨をまとめて地域の方の願いをまとめるようにした。初めての取組であったが、子どもたちからは、「分かりやすくなった。」「他の資料でも使いたい」といった声が聞かれた。



【くしま学の授業の様子】

これまでは、インターネットで調べたことを、そのまま写すか、印刷するかだったけど、これからは、調べたことを要旨をまとめて、発表したいです。要旨をまとめること、もっと分かりやすくなると思うので、これからは使いたいです。

【くしま学の授業後の感想】

カ 実践の考察

- キャリア教育の視点からの問いである「要旨の読み取りは、どのような場面で生かせるだろう。」という発問に対して、児童は初め戸惑っていたようであった。「国語だけではなく？」という声かけを行うと、すぐに「くしま学」と答えた。この日の日記にも、「国語だけでなく、総合でも使えることが分かった。」とあり、今回の学習を生かそうという児童の意欲が高まった。
 - 今回行った授業実践においては、核となる体験活動は含まれていなかった。通常の授業を行っていたら、この国語の学習とくしま学の活動とのつながりは、非常に薄いものとなっていたと考える。しかし、今回作成した「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成、活用することで、国語科においてもくしま学の体験活動を意識した授業を行うことができた。結果的に、国語科とくしま学がキャリア教育を通じてリンクし、児童の「解決する力」を高めることができた。
- このように、児童が学校生活の中で「解決する力」身に付けて行くには、「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を活用した実践を継続していく必要があると考える。

(3) 小学校での実践 ～第6学年～

ア 授業教科の決定

「本校のキャリア教育全体プログラム」と「全体構想」に従って、キャリア教育の視点と関連付けた授業実践を行うこととした。本学級の課題は「かかわる力」となっており、その力を付けるため、「全体構想」の中から、算数科の授業を行うことにした。

イ 育成したい具体的な力の設定

「キャリア教育全体プログラム」や「全体構想」を基に、目指す児童像を「問題解決において、多様な方法で考える良さを実感し、分かりやすい説明ができる」とした。これらの力を育成していくために、算数科の単元「割合を使って」において、言葉や式、線分図などを用いて課題を解決し、自分の考えを友達に分かりやすく伝える学習過程をふまえた授業を行った。

ウ 授業におけるキャリア教育の視点の作成

この実践においては、「かかわる力」を育むため、右のようなキャリア発達支援の流れを作成した。キャリア教育の視点からの問いを「別の考え方や、より分かりやすい方法はありませんか。」とすることで、既習事項を活用しながら筋道を立てて説明したり、順序立てて考えたりする能力や友達とかかわり合いながら別の方法で答えを導き出そうとする意欲を高めようと考えた。また、くしま学で調べて分かったことや考えたことをまとめ、他者に分かりやすく伝えることにつなげようと考えた。

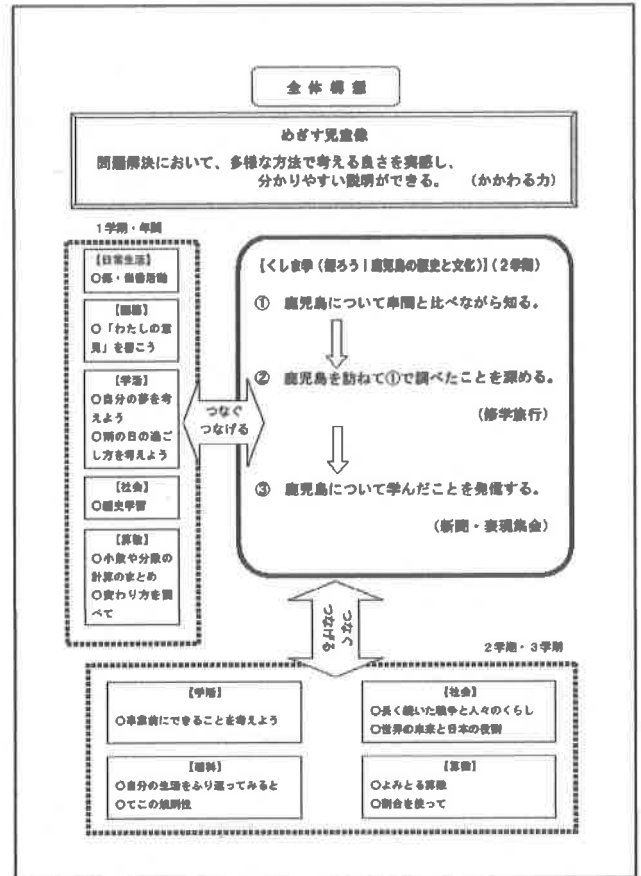
エ 授業実践「算数科」

(ア) 単元名「割合を使って」

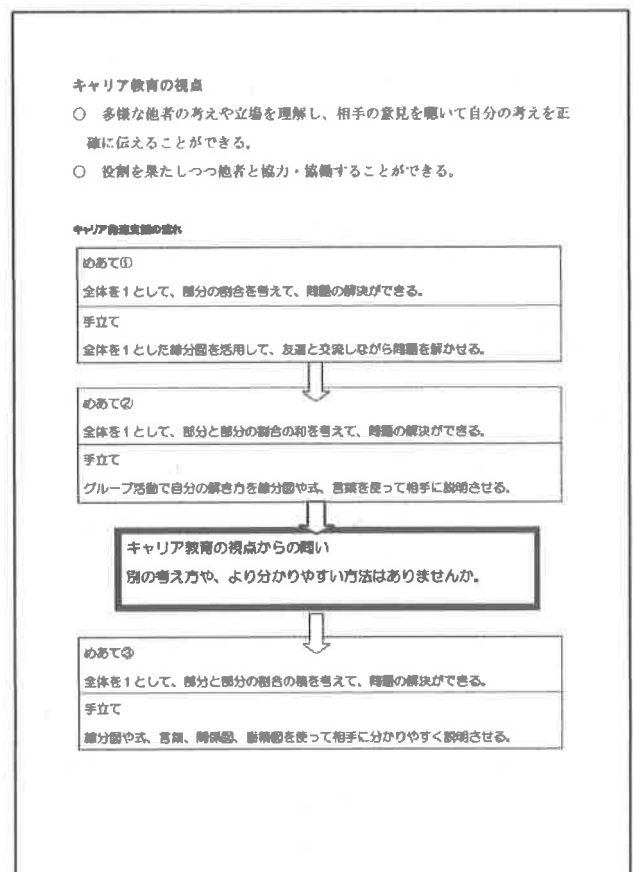
(イ) 本時の目標

- 全体を1として、割合の和を考えて、問題を解くことができる。

【数量や図形についての技能】



【「かかわる力」をはぐくむための全体構想】



【キャリア発達支援の流れ】

(ウ) 学習指導過程

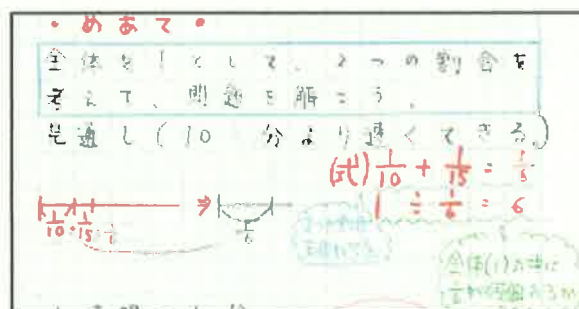
学習内容および学習活動	指導上の留意点 ◎キャリア教育の視点
1 本時の学習問題を知り、問題を把握する。 水道管で水そうに水を入れるのにAの管では10分、Bの管では15分かかります。両方の管をいっしょに使って水を入れると、何分でいっぱいになりますか。	○ 水そう全体の量が示されていないことに気付かせる。
2 前時の問題との違いを見つけ、本時のめあてをたてる。 ○ めあて 全体を1として、2つの割合を考えて問題を解こう。	○ 前時と同様に全体を1と考え、割合を使っていくことを確認する。
3 解決の見通しをもつ。 ・方法 ・答え	○ 方法の中で「線分図」という言葉を引き出す。 ○ 答えの見通しの中で、10分以内になることを押さえる。
4 個人で考える。	○ 線分図や式をノートに書かせ、自分で解かせる。
5 3人組で話し合う。	○ 3人組で確認させることで、理解を深めるとともに、学び合う楽しさを味わわせるようにする。
6 全体で話し合う。	○ ノートを見せながら全体で発表し合い、よりよい考え方をを見つけさせる。 ◎ 発表された意見や共通点や相違点に気付く。
7 本時をふり振り返り、まとめをする。 ○ まとめ 全体を1として、割合の和を考えて解けばよい。	○ 板書をもとにししながら、本時学習を振り返り、分かったことをまとめることができるようにする。
8 適用問題で確かめる。	

オ 授業実践後の指導

算数科のみならず、国語科の単元「ふるさとの良さをしょうかいしよう」では、個々がインターネットやパンフレットなどから集めた情報をグループで共有させる学習を行うなど他教科でも説明し伝え合う活動を取り入れた。そうすることで、自己内対話に終始せず、一人では気付かなかった新しい視点が得られたり、考えの質を高めたりすることができた。また、協力して問題に取り組むことで多様な方法が生まれ、解決に近づいていくことを具体的な操作と、説明し合う活動を通して実感させ、キャリア形成につながった。

カ 実践の考察

- 少人数グループで説明し伝え合わせることで、臆することなく自分の考えを表現でき、学び合う喜びを感じている様子が見られた。また、線分図が思考の道具だけでなく、他者へ説明するための道具となることに気付いた児童もいた。
- 「全体構想」や「キャリア発達の支援の流れ」を作成することで、教師がキャリア教育を意識して授業を行うことができた。また、「キャリア教育の視点からの問い」を授業で投げかけることで、児童の思考や発想を変化させたり深化させたりすることができ、児童のキャリア発達をより促すことができた。



【児童のノート】

(4) 中学校での実践 ～第2学年学級活動～

ア 授業教科の決定

本校の課題は「みつめる力」となっており、その力をつけるために「全体構想」を基に各教科で関連する授業を実施した。その中心となる【職場体験学習】の発表会を学級活動で行うこととした。

イ 育成したい具体的な力の設定

「キャリア教育プログラム」「全体構想」を基に、目指す生徒の姿を「職場体験学習を通じて、自己の職業に対する適正や進路について考えることができる。」とした。これらの力を育成していくために、学級活動において自分が体験した仕事を学級で発表し、また他の生徒の発表を見ることによって、自分の将来を見つめ直す機会を設けた。

ウ 授業におけるキャリア教育の視点の作成

この実践では「みつめる力」を育むために学級活動とくしま学を意図的に関連付けたキャリア発達支援の流れを作成した。キャリア教育からの視点からの問いを「職場体験学習で得たことを自分の生活に活かしているか。」とすることで、自分の将来像を明確にして、目標をもって生活できるのではないかと考えた。また、職場体験学習で学んだことを他人にわかりやすく伝えようとする中で、自分の体験を客観的に整理し、伝える力を養えるのではないかと考えた。

エ 授業実践「学級活動」

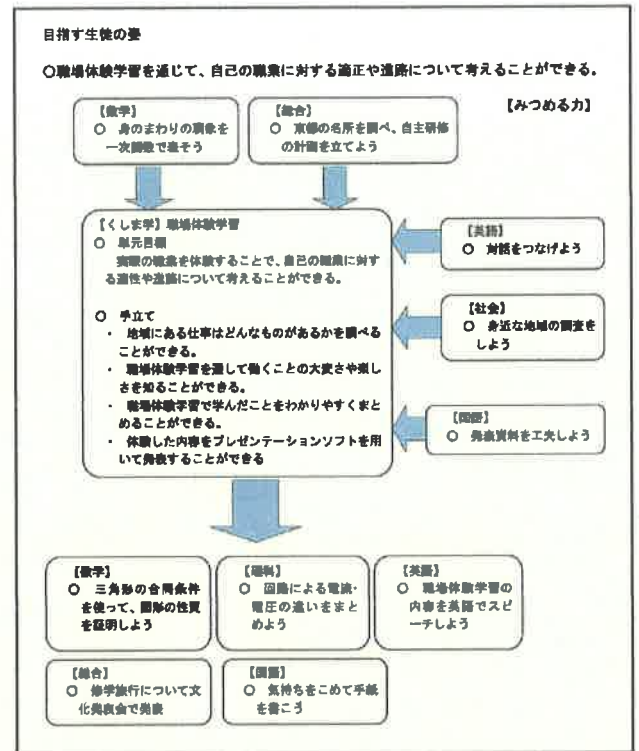
(ア) 題材「職場体験学習から学んだことを伝え合おう」

(イ) 本時のねらい

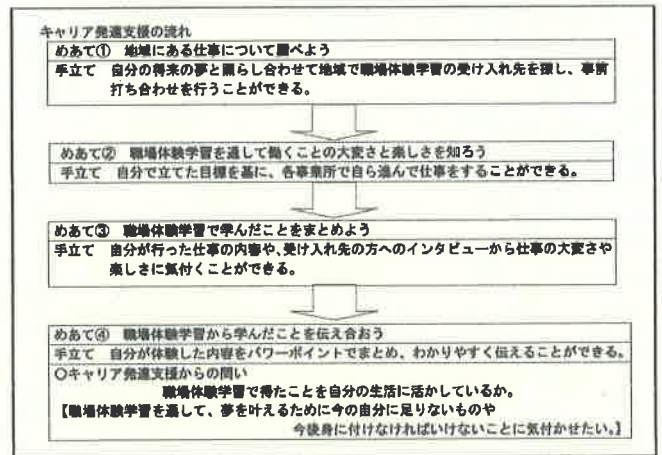
- 様々な職業について理解し、職業・勤労の目的や意義を理解することができる。
- 自己の将来に目を向け、その実現に向けて進路について考えることができる。

(ウ) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点 ◎ キャリア教育の視点
1 職場体験学習を振り返り、『充実度自己評価』を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験学習の写真を見ながら振り返る。 ○ ワークシートに職場体験学習の自己評価を行う。



【「みつめる力」をはぐくむための全体構想】



【キャリア発達支援の流れ】

2 本時のねらいと流れを知る。	○ 実際に体験した内容をプレゼンテーションすることで職場体験学習で何を学んだのか、友達が何を学んだかを知ることがねらいであることを説明する。
職場体験学習から学んだことを伝え合おう	
3 職場体験学習の様子を1人ずつ発表する。	◎ 作成したプレゼンテーションをもとに発表させる。 ○ 他の生徒は説明を聞きながら発表の様子や質問内容を評価シートに記入させる。
4 発表した内容についての質問事項や感想をまとめる。	○ 全員の発表が終わったら感想を記入させる。
5 質問や感想を発表者に渡し、お互いの評価を確認する。	○ 評価シートをそれぞれに渡し、内容を確認させる。 ○ 全員の意見を読んだら、全体を通しての感想を書かせ、一人ずつ発表させる。
6 働くことについての教師のまとめを聞く。	○ 友だちの考え方、感じ方を知ることが、自分の考えを深め、さらに、今後の生き方について考えるきっかけになることに気付かせる。
7 学んだことをまとめる。	◎ <u>職場体験学習で学び、これからの生活に生かしたいことをワークシートに記入させる。</u>

オ 授業実践後の指導

学級活動においてキャリア教育を意識した授業を行った後、その発表内容を模造紙にまとめ直して学級に掲示し、立志式において自分の将来や夢を明確にするための一助となるようにした。実際に立志式で発表するための原稿を書かせる段階において、今までの自分を振り返り、職場体験学習で学んだことを自分の進路実現の鍵として取り組んでいきたいという意見が多く見られた。



【発表する生徒】

カ 実践の考察

○ キャリア教育の視点からの問いである「職場体験学習で得たことを自分の生活に活かしているか。」という発問に対しては具体的な意見は出なかったものの、感想文や生活の記録の中からそれぞれが学んだことを大事にしていることがわかった。

○ 今回行った授業実践は核となる体験活動をまとめ、発表するものだった。単元の性質上キャリア教育とは非常に関連の深い内容だったので、将来だけでなく現在の自分の生活の在り方を見つめることができた。今回作成した「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成、活用することで教科間で連携しながらキャリア教育に取り組むことができ、何より自分自身がキャリア発達を意識した発問を心がけるようになった。また、「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成したことで各教科や特別活動等で「みつめる力」を高めることができた。



【生徒の作成した掲示物】

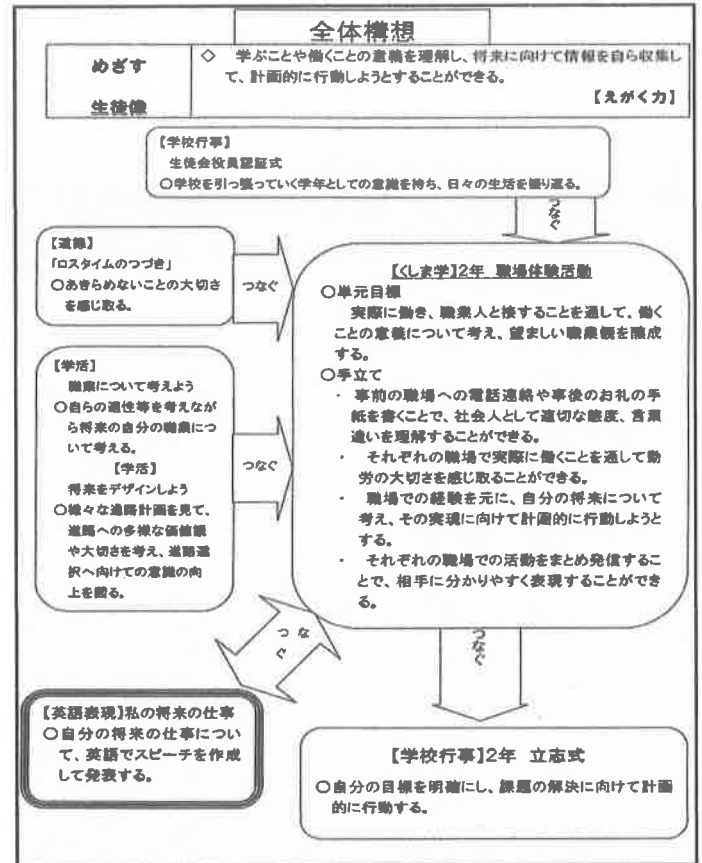
(5) 中学校での実践 ～第2学年英語表現科～

ア 授業教科の決定

本校の「キャリア教育全体プログラム」、「全体構想」に従い、キャリア教育の視点と関連付けた授業実践を行うこととした。本校の課題は「えがく力」となっており、その力をつけるため、「全体構想」の中から、くしま学【職場体験活動】とつながる英語表現科の授業を行うこととした。

イ 育成したい具体的な力の設定

「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を基に、目指す生徒の姿を「学ぶことや働くことの意義を理解し、将来に向けて情報を自ら収集して、計画的に行動しようとすることができる。」とした。これらの力を育成していくために、英語表現科の単元「私の将来の仕事」において将来について英語スピーチを作成し、発表する学習を行うこととした。



【「えがく力」をはぐくむための全体構想】

ウ 授業におけるキャリア教育の視点の作成

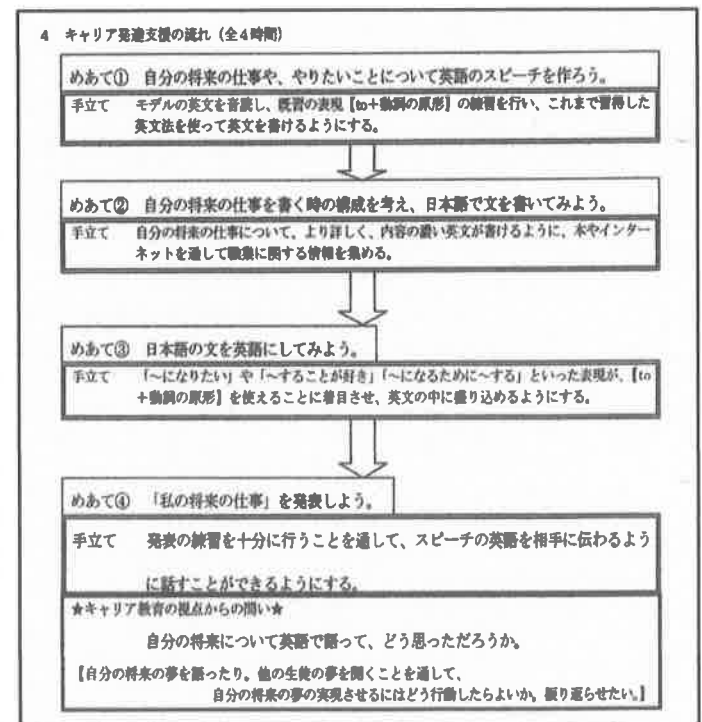
この実践では、「えがく力」を育むために英語表現と、くしま学を意図的に関連付けたキャリア発達支援の流れを作成した。キャリア教育の視点からの問いを「自分の将来について英語で語って、どう思っただろうか。」と設定し、自分の将来についてのスピーチを発表させることで、自分の就きたい仕事について深く考えさせようとした。また、その仕事でやりたいことや、夢を実現させるために、これからどんな努力を積み重ねるかについて考え、今の生活と将来とのつながりを意識させようとした。

エ 授業実践「英語表現科」

(ア) 単元名「私の将来の仕事」

(イ) 本時の目標 (4/4)

- 相手が聞き取りやすいように、声量や速さに気をつけて積極的に伝えようとするができる。 【コミュニケーションに対する関心・意欲・態度】
- 他の生徒のスピーチを聞き、なりたい職業やエピソードなど、相手の伝えたいことを聞きとることができる。 【理解の能力】



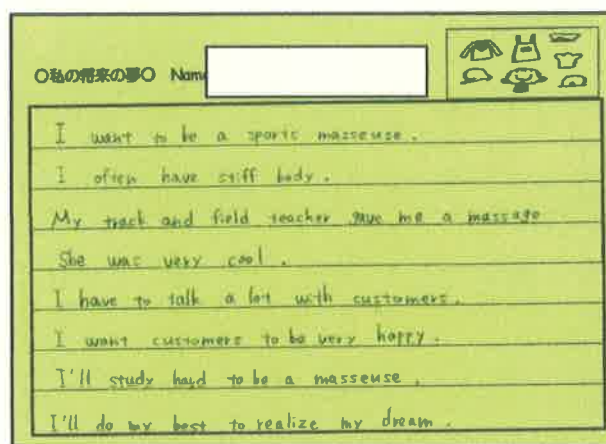
【キャリア発達支援の流れ】

(ウ) 学習指導過程

学習内容および学習活動	指導上の留意点 ◎キャリア教育の視点
1 ペア活動に取り組む。 2 本時のめあてを知る。 3 新出単語を練習する	○ 基本例文集を読み、これから英語を話す雰囲気を作る。 ◎「私の将来の仕事」のスピーチを発表しよう。 ○ スピーチを聞く上で、必要な表現や単語を導入する。
4 発表へ向けて最後の練習と準備に取り組む。	○ スピーチの音読練習に取り組ませ、相手により伝わるように発表できるようにさせる。
5 発表を聞く。	○ 評価シートを用いて、お互いの英文を評価し合い、集中して発表を聞くようにさせる。
6 本時の学習を振り返り、自分の将来の夢について考える。	◎ 「自分の将来について英語で語って、どんなことを考えただろうか。」を問い、感想をまとめる。

オ 授業実践後の指導

英語表現科においてキャリア教育を意識した授業を行った後、発表内容を学級掲示して、その後に核となる体験活動である、立志式につながるようにした。たくさんのスピーチ文を見ることで、一時間の活動に終始するのではなく、学習したことを常に振り返ることができた。立志式において、これからの自分の生き方をえがく上でも助けになったようである。



【生徒の英作文例】

カ 実践の考察

- 授業後に「えがく力」についてアンケートを行ったところ、学級のえがく力が3.0から3.1に上がった。また【今の学習や活動を将来のために大切にすること】が3.4から3.5に上がった。英文の作成において情報をしっかりと集めたことや、それを多くの生徒の前で発表したことから、将来への夢を達成する上で、現実の問題に直面し、それらに積極的に挑戦しようとするきっかけになったのではないかと考える。
- 職場体験活動のことや立志式のことを意識させるために、「自分の今の生活から将来の姿を考えることが大切だ」と生徒に語った上で、キャリア教育の視点からの発問を行ったところ、「将来の夢に向かう計画を考えるきっかけとなった」といった意見が出てきた。
- 発表を行ったり、それを聞いたりすることは「かかわる力」にも関連することであると考える。伝えようとする生徒の姿勢に対して、それを真剣に聞くことの大切さについて気付いた生徒もいた。



【授業中の様子】



【発表する生徒】

Ⅶ 成果と課題

1 成果

＜学校生活アンケートに関して＞

- 市内全学校に学校生活アンケートを実施し、その結果を集約・分析したことで、串間市の児童・生徒のキャリア発達における課題を具体的に把握することができた。

＜キャリア教育担当者会の実施に関して＞

- 各小中学校のキャリア教育担当者にキャリア教育全体プログラムの作成研修を実施したことにより、キャリア教育で育成すべき力を中心としたキャリア教育の推進が各校で図られた。

＜キャリア教育全体プログラムに関して＞

- 「キャリア教育全体プログラム」から「全体構想」を作成することで、キャリア教育の進め方を職員間で共通理解することができた。

＜授業実践に関して＞

- キャリア発達を支援する授業実践は、個々の児童生徒の課題意識を高め、課題解決に向けて主体的に取り組む児童生徒を育成する手立てにつながった。

2 課題

＜キャリア教育全体プログラムの深化について＞

- キャリア教育の進め方や授業の在り方について、一貫教育担当者会等との連携を図り、学校間で情報を共有しながら、よりよいキャリア教育全体プログラムを目指す必要がある。

＜評価について＞

- 小中高を見通したキャリア教育の成果を見届けるために、児童・生徒のキャリアが日々の授業でどのように変容したかについて把握する評価の仕方とその生かし方について研究する必要がある。

【引用・参考文献】

- ・小学校 キャリア教育の手引き [平成23年5月 文部科学省]
- ・中学校 キャリア教育の手引き [平成23年5月 文部科学省]
- ・キャリア教育って結局なんだ? [平成21年11月 国立教育制作研究所]
- ・宮崎県キャリア教育ガイドライン [平成25年1月 宮崎県教育委員会]
- ・「キャリア教育」資料集 研究・報告書・手引編 [平成25年度版 文部科学省]
- ・平成24年度研究紀要 [平成25年2月 串間市教育研究所]
- ・平成25年度研究紀要 [平成26年2月 串間市教育研究所]

【研究同人】

所長	土肥 昭彦	(串間市教育長)		
事務局	都成 量	(学校政策課長)	野邊 幸治	(学校政策課長補佐)
指導員	甲斐 寿尚	(指導主事)		
研究員	塩月 貴	(大平小学校教頭)	田中 洋貴	(福島小学校)
	園木 和久	(北方小学校)	川越 賀津雄	(本城小学校)
	日高 真	(福島中学校)	野邊 智亮	(大東中学校)
	上野 亮	(都井中学校)		

にちじょうせいかつ
日常生活アンケート(小学校1～3学年用)
がくねんよう

() 年 () 組 名前 ()

◇ これはテストではありません。あなたのいつもの生活（じゅぎょう中やほうかご、かていで生活などすべてをふくみます）をふりかえって、あてはまるばんごうに○をつけましょう。

4…いつもよくしている 3…ときどきしている 2…あまりしていない 1…ほとんどしていない

①	ともだちや いえの人の はなしを きくとき、はなす人の かんがえや きもちを わかろうと していますか。	4 3 2 1
②	じぶんの かんがえや きもちを みんなの前で わかりやすく 話そうとしていますか？	4 3 2 1
③	じぶんから しごとを 見つけて、ともだちと 力を 合わせて がんばることが できますか。	4 3 2 1
④	じぶんの すきなこと、よいところや わるいところなどが わかりますか。	4 3 2 1
⑤	いやなことや やる気の出ないことでも じぶんが しなれば いけないことには とりくもうとしていますか。	4 3 2 1
⑥	うまくできないことにも、じぶんから すすんで とりくもうと していますか。	4 3 2 1
⑦	わからないことや もっと知りたいことが あるとき、じぶんか ら すすんで しらべたり、だれかに きいたり していますか。	4 3 2 1
⑧	こまったことが あったとき、つぎに おなじようなことで こまらないように、なにを すればよいか かんがえていますか。	4 3 2 1
⑨	なにかを するとき、やるじゅんばんや やり方をかんがえて すすめたり、もっといい やり方にかえたりしていますか。	4 3 2 1
⑩	べんきょうすることや はたらくことの 大切さについて かん がえたり、学校でべんきょうしていることが しょうらい やくに 立つことを かんがえたりしていますか。	4 3 2 1
⑪	じぶんの しょうらいのゆめについて、かんがえていますか。	4 3 2 1
⑫	じぶんの しょうらいのゆめに むかって がんばっていますか。	4 3 2 1

日常生活アンケート（小学校4～6学年用）

年 名前 (_____)

これはテストではありません。あなたの日常生活（授業中や放課後、家庭での生活など全てを含みます）の様子を振り返って、当てはまる番号に○をつけましょう。

4…いつもしている 3…ときどきしている 2…あまりしていない 1…ほとんどしていない

①	友達や家族の話を聞くと、その人の言いたいことや気持ちを考えながら聞こうとしていますか。	4	3	2	1
②	相手にわかりやすいように、工夫しながら自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	4	3	2	1
③	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、友達と協力して行動しようとしていますか。	4	3	2	1
④	自分の興味や関心、長所や短所などについて考えようとしていますか。	4	3	2	1
⑤	気分がしずんでいるときや、あまりやる気がないことでも、自分がしなければいけないことに取り組もうとしていますか。	4	3	2	1
⑥	不得意なことや苦手なことでも、自分から進んで取り組もうとしていますか。	4	3	2	1
⑦	わからないことやもっと知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を集めたりだれかに質問したりしていますか。	4	3	2	1
⑧	何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。	4	3	2	1
⑨	何かをするとき、見通しをもって計画的に進めたり、よりよい方法を考えたりしていますか。	4	3	2	1
⑩	学ぶことや働くことの大切さを考えたり、学校で学んでいることが自分の将来に役立つことを考えたりしていますか。	4	3	2	1
⑪	自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えていますか。	4	3	2	1
⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	4	3	2	1

学校生活アンケート～中学校生徒・高校生徒用～

氏名 ()

これまでの学校生活を振り返って、自分が当てはまる数字に○をつけましょう。 ※4段階で判断する。
 < 4…いつもしている 3…ときどきしている 2…あまりしていない 1…ほとんどしていない >

No.	質 問	評 価			
1	適切な言葉づかいで、相手や場面に応じたあいさつや返事ができる。	4	3	2	1
2	自分と違う意見を受け入れながら、自分の考えを適切に伝えることができる。	4	3	2	1
3	周りの人に配慮しながら、積極的によい人間関係をつくろうとしている。	4	3	2	1
4	人のよさや気持ちを尊重しながら、協力して仕事や活動を行うことができる。	4	3	2	1
5	グループ活動で、班長やまとめ役となって、他の意見をまとめながら活動することができる。	4	3	2	1
6	自分の長所や個性を理解し、自分を大切にできる。	4	3	2	1
7	自分の個性や興味・関心を生かした活動等を選択できる。	4	3	2	1
8	自分で選んだことや行動したことは、自分で責任を持つことができる。	4	3	2	1
9	気持ちが乗らない時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組むことができる。	4	3	2	1
10	自分の欠点に気づき、改善しようと努力することができる。	4	3	2	1
11	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組むことができる。	4	3	2	1
12	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問したりできる。	4	3	2	1
13	何か問題が起きた時、繰り返さないように、どうすればよいか考えることができる。	4	3	2	1
14	自分の係や仕事に対して、意欲的に取り組むことができる。	4	3	2	1
15	困難な課題や苦手な学習や活動に対して、最後まで取り組んでいる。	4	3	2	1
16	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、その方法ややり方について改善を図ったりしている。	4	3	2	1
17	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。	4	3	2	1
18	自分の将来のために、今の学習や活動は意義があり、大切であると思う。	4	3	2	1
19	希望の進路を実現させるための課題を理解し、進路に関する情報を集めたり、調べたりしている。	4	3	2	1
20	自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えている。	4	3	2	1
21	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしている。	4	3	2	1

今の生活を振り返り、これからの生活に生かしていきましょう

日常生活チェックシート（小学校教職員用）

名前（ _____ ）

担任をしている学級の児童について、日常生活（授業中や放課後、家庭での生活など全てを含みます）の様子を振り返り、当てはまる番号に○をつけてください。

4…いつもしている 3…ときどきしている 2…あまりしていない 1…ほとんどしていない

①	友達や家族の話を書くとき、その人の言いたいことや気持ちを考えながら聞こうとしている。	4	3	2	1
②	相手にわかりやすいように、工夫しながら自分の考えや気持ちを伝えようとしている。	4	3	2	1
③	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、友達と協力して行動しようとしている。	4	3	2	1
④	自分の興味や関心、長所や短所などについて考えようとしている。	4	3	2	1
⑤	気分が沈んでいるときや、あまりやる気がないことでも、自分がしなければいけないことに取り組もうとしている。	4	3	2	1
⑥	不得意なことや苦手なことでも、自分から進んで取り組もうとしている。	4	3	2	1
⑦	わからないことやもっと知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を集めたり、誰かに質問したりしている。	4	3	2	1
⑧	何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えている。	4	3	2	1
⑨	何かをするとき、見通しをもって計画的に進めたり、よりよい方法を考えたりしている。	4	3	2	1
⑩	学ぶことや働くことの大切さを考えたり、学校で学んでいることが自分の将来に役立つことを考えたりしている。	4	3	2	1
⑪	自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えている。	4	3	2	1
⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしている。	4	3	2	1

先生ご自身にお尋ねします。

⑬	あなたは、キャリア教育を意識しながら指導していますか。	4	3	2	1
⑭	あなたは、昨年度、市教育研究所が配付した「キャリア教育の道しるべ」を活用していますか。	4	3	2	1

ご協力、ありがとうございました。

学校生活チェックシート～中学校教職員用～

氏名()

子どもたちの様子を見て、当てはまると思われる数字に○をつけてください。 ※4段階で判断する。
 <4…ほとんどできている 3…まあまあできている 2…あまりできていない 1…ほとんどできていない>

No.	質 問	評 価
1	適切な言葉づかいで、相手や場面に応じたあいさつや返事ができる。	4 3 2 1
2	自分と違う意見を受け入れながら、自分の考えを適切に伝えることができる。	4 3 2 1
3	周りの人に配慮しながら、積極的によい人間関係をつくろうとしている。	4 3 2 1
4	人のよさや気持ちを尊重しながら、協力して仕事や活動を行うことができる。	4 3 2 1
5	グループ活動で、班長あるいはまとめ役となって、他の意見をまとめながら活動することができる。	4 3 2 1
6	自分の長所や個性を理解し、自分を大切にできる。	4 3 2 1
7	自分の個性や興味・関心を生かした活動等を選択できる。	4 3 2 1
8	自分で選んだことや行動したことは、自分で責任をもつことができる。	4 3 2 1
9	気持ちが乗らない時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組むことができる。	4 3 2 1
10	自分の欠点に気づき、改善しようと努力することができる。	4 3 2 1
11	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組むことができる。	4 3 2 1
12	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問したりできる。	4 3 2 1
13	何か問題が起きた時、繰り返さないように、どうすればよいか考えることができる。	4 3 2 1
14	自分の係や仕事に対して、意欲的に取り組むことができる。	4 3 2 1
15	困難な課題や苦手な学習や活動に対して、最後まで取り組んでいる。	4 3 2 1
16	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、その方法ややり方について改善を図ったりしている。	4 3 2 1
17	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今、学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。	4 3 2 1
18	自分の将来のために、今の学習や活動は意義があり、大切であると思う。	4 3 2 1
19	希望の進路を実現させるための課題を理解し、進路に関する情報を集めたり、調べたりしている。	4 3 2 1
20	自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えている。	4 3 2 1
21	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしている。	4 3 2 1

先生ご自身にお尋ねします。

22	あなたは、キャリア教育を意識しながら指導していますか。	4 3 2 1
23	あなたは、昨年度、市教育研究所が配付した「キャリア教育の道しるべ」を活用していますか。	4 3 2 1

学校生活チェックシート～福島高校の学級担任の先生用～

氏名()

子どもたちの様子を見て、当てはまると思われる数字に○をつけてください。 ※4段階で判断する。
 <4…ほとんどできている 3…まあまあできている 2…あまりできていない 1…ほとんどできていない>

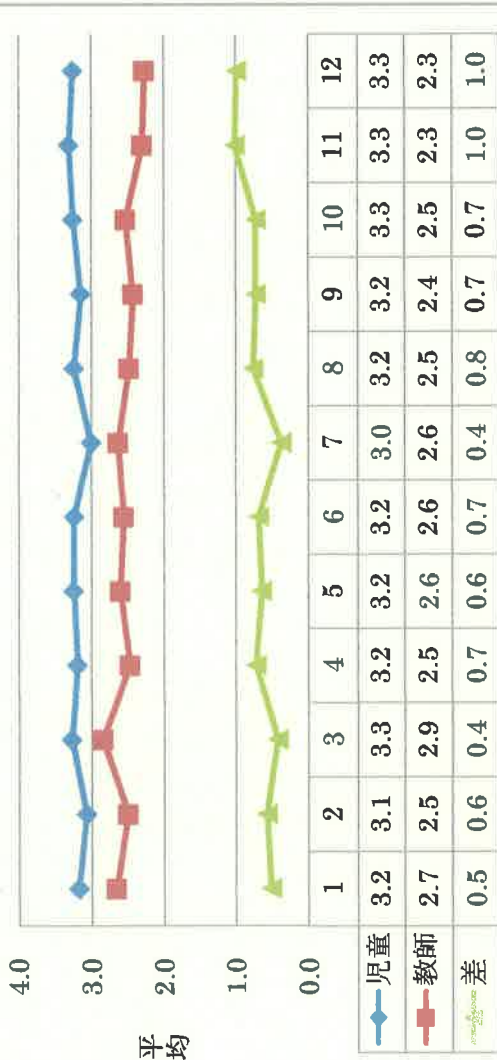
No.	質 問	評 価
1	適切な言葉づかいで、相手や場面に応じたあいさつや返事ができる。	4 3 2 1
2	自分と違う意見を受け入れながら、自分の考えを適切に伝えることができる。	4 3 2 1
3	周りの人に配慮しながら、積極的によい人間関係をつくろうとしている。	4 3 2 1
4	人のよさや気持ちを尊重しながら、協力して仕事や活動を行うことができる。	4 3 2 1
5	グループ活動で、班長あるいはまとめ役となって、他の意見をまとめながら活動することができる。	4 3 2 1
6	自分の長所や個性を理解し、自分を大切にできる。	4 3 2 1
7	自分の個性や興味・関心を生かした活動等を選択できる。	4 3 2 1
8	自分で選んだことや行動したことは、自分で責任をもつことができる。	4 3 2 1
9	気持ちが乗らない時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組むことができる。	4 3 2 1
10	自分の欠点に気づき、改善しようと努力することができる。	4 3 2 1
11	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組むことができる。	4 3 2 1
12	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問したりできる。	4 3 2 1
13	何か問題が起きた時、繰り返さないように、どうすればよいか考えることができる。	4 3 2 1
14	自分の係や仕事に対して、意欲的に取り組むことができる。	4 3 2 1
15	困難な課題や苦手な学習や活動に対して、最後まで取り組んでいる。	4 3 2 1
16	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、その方法ややり方について改善を図ったりしている。	4 3 2 1
17	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今、学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。	4 3 2 1
18	自分の将来のために、今の学習や活動は意義があり、大切であると思う。	4 3 2 1
19	希望の進路を実現させるための課題を理解し、進路に関する情報を集めたり、調べたりしている。	4 3 2 1
20	自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えている。	4 3 2 1
21	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしている。	4 3 2 1

先生ご自身にお尋ねします。

22	あなたは、キャリア教育を意識しながら指導していますか。	4 3 2 1

アンケートへのご協力ありがとうございました。

串間市内の小学校



◎ 全体的な傾向について ※ 計算処理ソフトの性質上、児童と教師との差が合わない場合があります。

- 児童の自己評価としては、質問10「自分の将来に役立つことを考えること」質問11「将来の夢を実現するために考えること」質問12「将来の夢に向かって努力すること」が3.0ポイントで児童の自己評価として一番低い。教師の評価としては、質問11「将来の夢を実現するために考えること」質問12「将来の夢に向かって努力すること」が2.3ポイントと低かったが、児童の自己評価は高く、質問事項の中では教師の評価との差が1.0ポイントで一番高かった。教師は、児童の将来に向けての考えや態度が十分に育っていないと感じている。

教師との差について

- 質問3「役割を見つけて、協力すること」については、自己評価との差は0.4ポイントで低く、教師と児童の自己評価も高い。教師は、児童の行動を評価している。
- 質問11「将来の夢を実現するために考えること」質問12「将来の夢に向かって努力すること」については、自己評価の差が1.0ポイントと大きく、教師とのギャップがある。教師は、児童の将来に向けての考えや態度が十分に育っていないと感じている。

4つの能力について

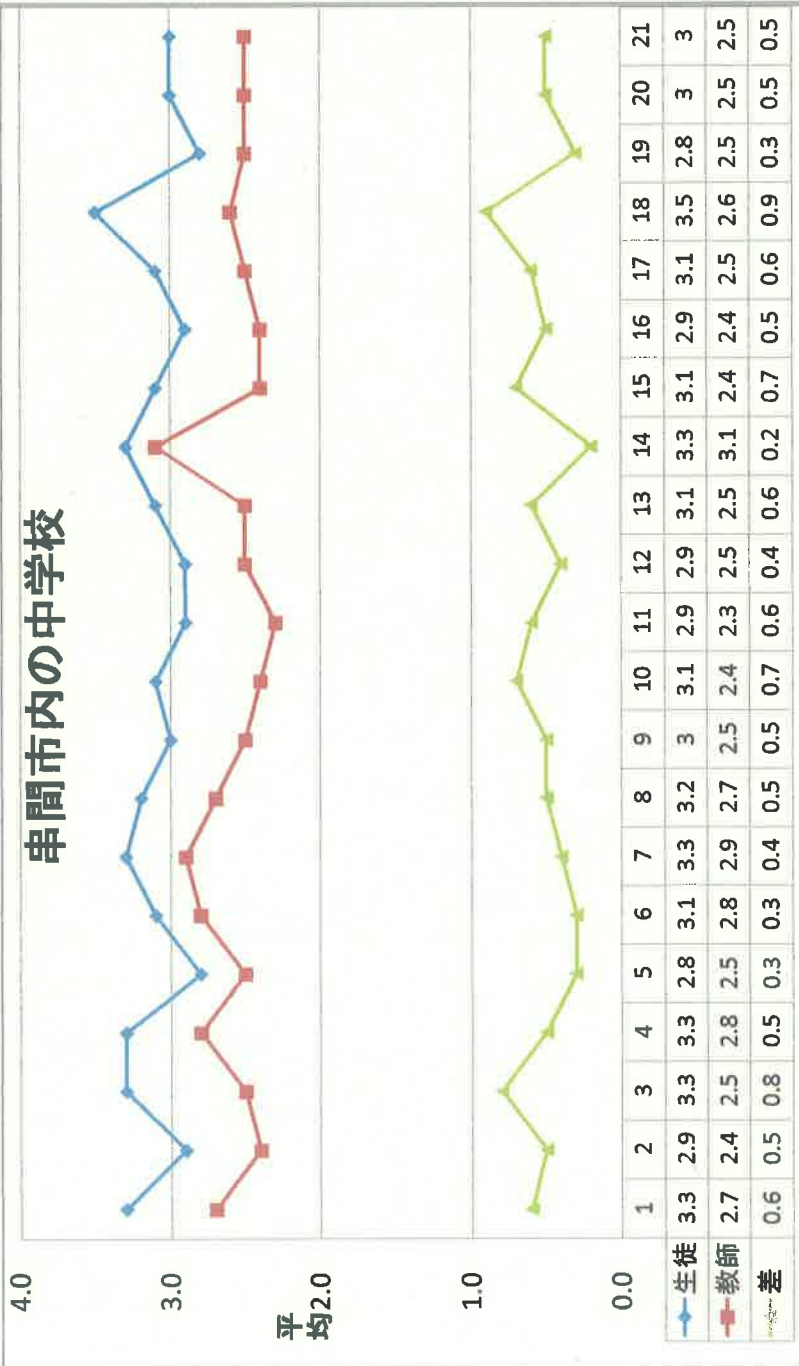
- 児童の「えがく力」の自己評価が高く、将来に考えをもっていることに対して、教師の「えがく力」の評価は低くなっている。その差は、4つの能力の中でも一番大きい。さらに、教師の評価としては、「みつめる力」と「解決する力」も評価が低い。教師が考える児童の「えがく力」が十分でないという背景には、教師が身につけさせたい児童の自己理解・自己管理能力や課題対応能力の低い要因が考えられる。教師には、児童が社会人として自立することを理解すると共に、そのために、自分の目標に向かってしっかりと学んでもらいたいと願っていると思われる。

串間市内の小学校



※ 計算処理ソフトの性質上、児童と教師との差が合わない場合があります。

串間市内の中学校



全体的な傾向について

- 質問18「今の学習や活動を将来のために大切にすること」の項目が3.5ポイントと高かった。生徒が現在の学習や活動が将来の自分のためにも大切であると考えているからであろう。
- 質問5「グループ活動でリーダーとなって、他の意見をまとめ活動することができる」が2.8ポイントと低かった。係活動等の中でリーダーを経験させる。また、言語活動を充実させ、自分の意見を相手に分かりやすく伝えさせる工夫等が大切であると考える。
- 質問19「進路に関する情報を集めたり、調べたりすること」が2.8ポイントと低かった。将来の進路を考える上で情報を収集して、まとめさせる等の機会を設けることが大切ではないだろうか。

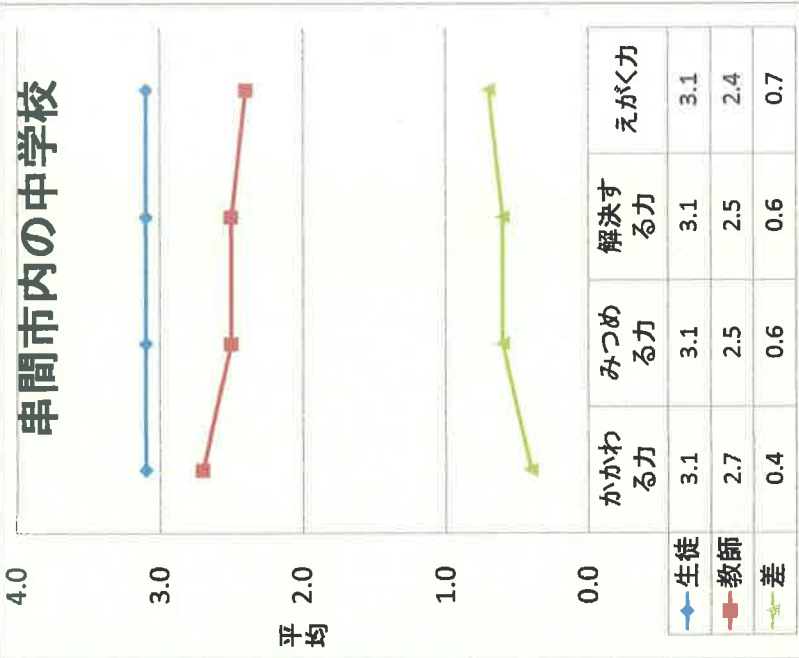
教師との差について

- 質問14「自分の係や仕事に対して、意欲的に取り組むこと」は生徒3.3ポイント、教師3.1ポイントと評価が高い。認識の面でも一致している。個々の生徒に様々な活躍の場面があり、行事に向けて積極的に取り組んでいる生徒が多いことが一因にあると考えられる。
- 質問3「周りの人に配慮して、良い人間関係を作ること」の項目が0.8ポイントと差が大きかった。周囲の友人に配慮した言動や行動を意識させることが大切ではないだろうか。
- 質問18「今の学習や活動を将来のために大切にすること」の項目が0.9ポイントと一番大きな差があった。学習や諸活動により意欲的に取り組ませるためにどのような手立てをとるかが課題である。

4つの能力について

- 生徒の自己評価では全て3.1ポイントで差がない。バランスが取れている。
- 「えがく力」については、生徒と教師の差が0.7ポイントと最も大きい。将来を見据え、現在の自分のあり方を考えさせることが課題である。

串間市内の中学校



中学校のキャリア教育プログラム

地域の実態

各学校で掲げた全体目標（学校経営方針・教育目標等を考慮）

キャリア教育の全体目標

生徒の実態

アンケートの分析結果等から記入する。

「 焦点化した基礎的・汎用的能力

かかわる力・みつめる力・解決する力・えがく力のいずれかを記入する。

「 力」

3年

題材名（核となる体験活動）を入れる。

2年

1年

目指す生徒像を入れる。
評価することを考えて、「～することができる。」と記入する。

〇〇中学校のキャリア教育プログラム

地域の実態

- ・ 周囲を山や畑で囲まれている。
- ・ 〇〇踊りや〇〇の鎌踊り、もぐらもち等の伝統文化が残っている。
- ・ 他地域に比べて、第一次産業に携わる方の割合が高い。
- ・ 保護者へのアンケートで、「いろいろな職種の人々の声を聞かせたい。」という声が多い。

キャリア教育の全体目標

- ・ 自己の理解を深め、夢や希望を持って、将来の生き方や生活を考え、自ら学習に向かおうとする態度を育てる。
- ・ 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、さまざまなコミュニケーションを図り、協力・共同して物事に取り組む生徒
- ・ 学ぶことや働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす生徒
- ・ 夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の実現を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する生徒
- ・ 自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともにその過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する生徒

生徒の実態

- ・ 学習の必要性について、大勢と考えている生徒が多い。
- ・ 自分の適性を考え、係や仕事に
対して責任をもつことができ
る。
- ・ 先を見通して、工夫したり改善したりすることに課題を感じているようである。

焦点化した基礎的・汎用的能力

「えがく力」 1年

- ① 農業体験
 - ② 小中高ウオーケラリー
 - ③ 小中交流活動
- ① 生産者のやりがいや苦勞を理解して、働くことの意味について考えることができる。
 - ② 高校生と一緒に活動し、3年後の自分の姿を想像することができる。
 - ③ 中学生として、あるべき姿を考え活動することができる。

3年

- ① 環境学習
- ② 小中交流活動

- ① 環境学習を通して、中間の将来について考えることができる。
- ① 社会へどのように貢献していくか考えることができる。
- ② 先輩として、小学生の立場を考えた交流活動を企画し、後輩たちへ伝えたいことを意識して発表ができる。

2年

- ① 小中交流活動
- ② 職場体験
- ③ 立志式

- ① 3年生の活動をサポートして、上級生のあるべき姿を考えることができる。
- ② 職場体験を通して、社会人として身に付けないといけない力に気づくことができる。
- ③ 立志式を通して、支えてくれる人への感謝と将来の自分に対する思いを伝えることができる。

全体構想（年間指導計画になります）

全体プログラムの目指す児童・生徒像が入ります。

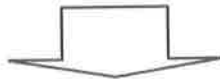
めざす児童・
生徒像

・
・

【 】

焦点化した育成したい力（基礎的・汎用的能力）が入ります。※置き換えた言葉を使用する。

[Empty box]



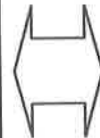
核となる「体験活動」を明記

(1) 教科としての目標

※ 目標をしっかりと意識するため。

(2) キャリア教育の視点に立って授業実践するための手立て

※ 体験活動の事前・事後の指導も含めて考えた方がよい。やりっ放し・させっぱなしにならないため。



[Empty box]



[Empty box]

上の核となる「体験活動」につながる題材を、教科・特別活動・道徳・行事・係活動等を選択する。

※ 研修では学年職員で分担して、付箋紙に記入して貼っていくとよい。

※ 内容は精選すること。無理に結びつける必要はない。

矢印で結んでいくが、一方通行 \rightarrow なのか、双方向 \leftrightarrow なのか検討する。

串間市教育研究所



研究主題

夢や希望をもち、
目標に向かって生きようとする
児童・生徒の育成

～串間市ならではのキャリア教育の
推進活動を通して～

主題設定の理由

社会的背景

雇用形態の

多
●終
●就

学生から

の遅れ

生きる力

変化に対応する力

課題に柔軟に対応する力

串間市 小中高一貫教育

学力向上

地域に貢献できる
人材の育成

平成24年度 研究の課題

学級活動だけでなく、
教科等に広げる必要がある

学習意欲・学力向上にまで
結びついていない

平成25年度の研究内容

① リーフレット
「キャリア教育の
道しるべ」
の作成



② 「キャリア教育の道しるべ」をもとにした授業実践と検証



・職種毎にすることで、多くの意見を出すことができる。

・他のグループの意見を聞き、気付かなかったことを知ることができる。

※昨年度の実践

平成25年度 研究の課題

研究内容が教職員に普及していない

小中高連携も含めた系統的なキャリア教育の実践ができるか

平成26年度の研究内容

つなぐ・つなげる教育

(1) 学校生活アンケートによる分析と考察

市内の全児童・生徒と全教職員を対象にアンケートをとり分析する。

(2) キャリア教育全体プログラムの作成から授業実践

キャリア教育担当者会で、キャリア教育全体プログラムを演習して、各学校で作成する。

研究仮説

キャリア教育の視点を基にした「キャリア教育全体プログラム」の作成方法を提示し、各学校において児童・生徒の実態に応じたプログラムを作成・実践すれば、キャリア教育の推進が図られ、児童・生徒のキャリア形成に必要な意欲や態度、能力を育成できるであろう。

つなぐ・つなげる教育

(1) 学校生活アンケートによる分析と考察

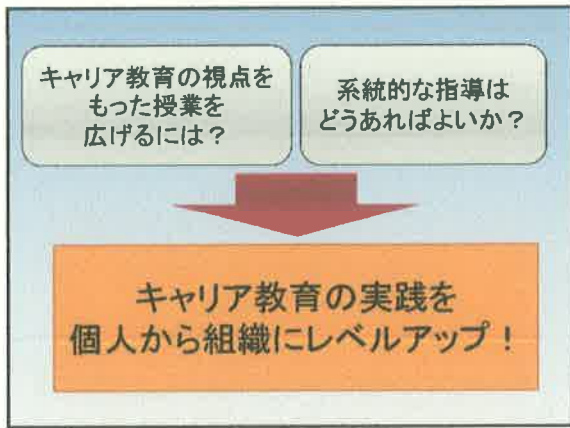
市内の全児童・生徒と全教職員を対象にアンケートをとり分析する。

(2) キャリア教育全体プログラムの作成から授業実践

キャリア教育担当者会で、キャリア教育全体プログラムを演習して、各学校で作成する。

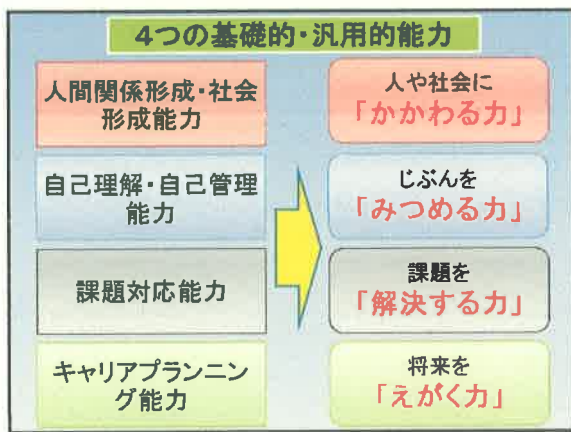
目指す児童・生徒像

- 積極的に場に応じたあいさつや会話ができる児童・生徒
- 自分の個性を生かし、主体的に行動できる児童・生徒
- 必要な情報を集め、計画的に課題解決に向かうことができる児童・生徒
- 学ぶこと・働くことの意義を考え、夢や目標に向かって努力する児童・生徒



平成25年度の研究内容

リーフレット「キャリア教育の道しるべ」の作成



(1)学校生活アンケートの実施

項目	1	2	3	4	5
1	4	3	2	1	
2	4	3	2	1	
3	4	3	2	1	
4	4	3	2	1	
5	4	3	2	1	
6	4	3	2	1	
7	4	3	2	1	
8	4	3	2	1	
9	4	3	2	1	
10	4	3	2	1	
11	4	3	2	1	
12	4	3	2	1	
13	4	3	2	1	
14	4	3	2	1	
15	4	3	2	1	
16	4	3	2	1	
17	4	3	2	1	
18	4	3	2	1	
19	4	3	2	1	
20	4	3	2	1	
21	4	3	2	1	
22	4	3	2	1	
23	4	3	2	1	
24	4	3	2	1	
25	4	3	2	1	
26	4	3	2	1	
27	4	3	2	1	
28	4	3	2	1	
29	4	3	2	1	
30	4	3	2	1	

- 発達段階による課題を明確にする
- 市全体の結果と比較して各学校の課題を把握できる
- 教職員にもアンケートを実施することで、客観的な分析ができる

(1)学校生活アンケート(中学校教職員用)

項目	1	2	3	4	5
1	4	3	2	1	
2	4	3	2	1	
3	4	3	2	1	
4	4	3	2	1	
5	4	3	2	1	
6	4	3	2	1	
7	4	3	2	1	
8	4	3	2	1	
9	4	3	2	1	
10	4	3	2	1	
11	4	3	2	1	
12	4	3	2	1	
13	4	3	2	1	
14	4	3	2	1	
15	4	3	2	1	
16	4	3	2	1	
17	4	3	2	1	
18	4	3	2	1	
19	4	3	2	1	
20	4	3	2	1	
21	4	3	2	1	
22	4	3	2	1	
23	4	3	2	1	
24	4	3	2	1	
25	4	3	2	1	
26	4	3	2	1	
27	4	3	2	1	
28	4	3	2	1	
29	4	3	2	1	
30	4	3	2	1	

生徒用の市全体の平均 **2.9ポイント**

あなたは、キャリア教育を意識しながら指導していますか？

22

あなたは、昨年度、市教育研究所が配付した「キャリア教育の道しるべ」を活用していますか？

23

市全体の平均 **1.8ポイント**

キャリア教育アンケート結果の分析

〇〇中学校(質問別)

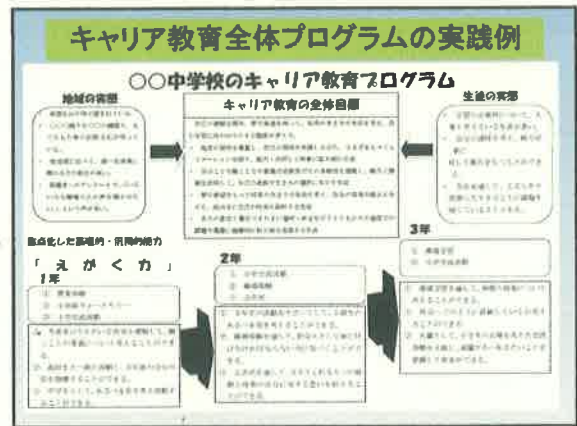
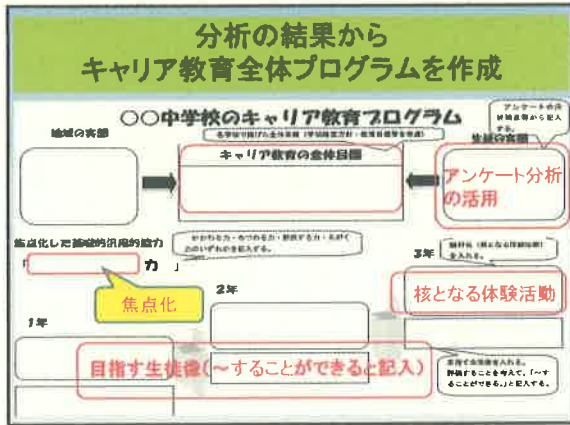
〇〇中学校(4能力別)

データをグラフ化

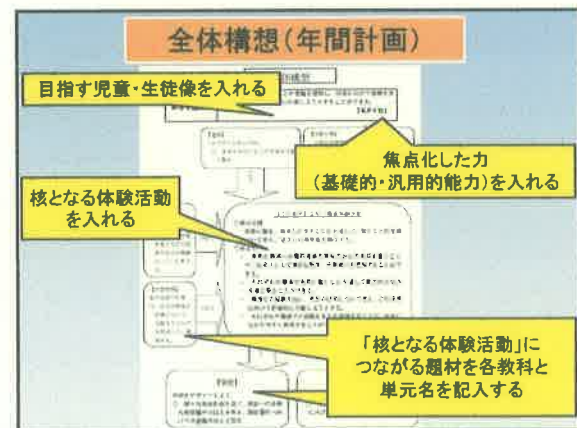
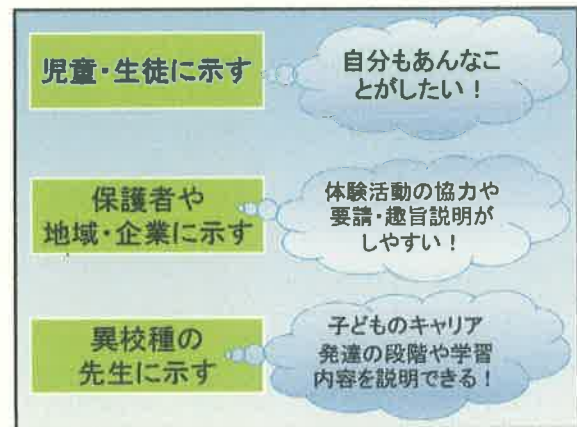
小規模校のために市全体のデータと比較

教師と生徒の意識の差を比較

項目	1	2	3	4	5
1	4	3	2	1	
2	4	3	2	1	
3	4	3	2	1	
4	4	3	2	1	
5	4	3	2	1	
6	4	3	2	1	
7	4	3	2	1	
8	4	3	2	1	
9	4	3	2	1	
10	4	3	2	1	
11	4	3	2	1	
12	4	3	2	1	
13	4	3	2	1	
14	4	3	2	1	
15	4	3	2	1	
16	4	3	2	1	
17	4	3	2	1	
18	4	3	2	1	
19	4	3	2	1	
20	4	3	2	1	
21	4	3	2	1	
22	4	3	2	1	
23	4	3	2	1	
24	4	3	2	1	
25	4	3	2	1	
26	4	3	2	1	
27	4	3	2	1	
28	4	3	2	1	
29	4	3	2	1	
30	4	3	2	1	



- ### キャリア教育全体プログラムを作成することで
- ① 児童・生徒の実態を把握できる。
 - ② 全職員で共通理解できる。
「身に付けさせたい力」
「目指す児童・生徒の姿」
「核となる体験活動」
 - ③ 各学年で推進するキャリア教育の全体構想を作成できる。
- 同じ考えでキャリア教育が展開できる



キャリア教育担当者会の感想

- キャリア教育全体プログラムの重要性がわかった。
- 小中合同で相談しながら作成することができたので、共通の取組ができると思う。
- 分析した資料を学校に持ち帰り、今後の指導に生かしたい。

市内の実践例

校内研修における キャリア教育全体プログラム作成

キャリア教育の
道しるべを活用

キャリア教育研修

キャリア教育
全体プログラム

全体構想


実態の把握から焦点化した
基礎的・汎用的能力の決定

- ① 地域の実態・児童の実態について話し合う



シンプルで分かりやすい表現

- ② 焦点化した基礎的・汎用的能力（四つの能力）の決定



校内研修

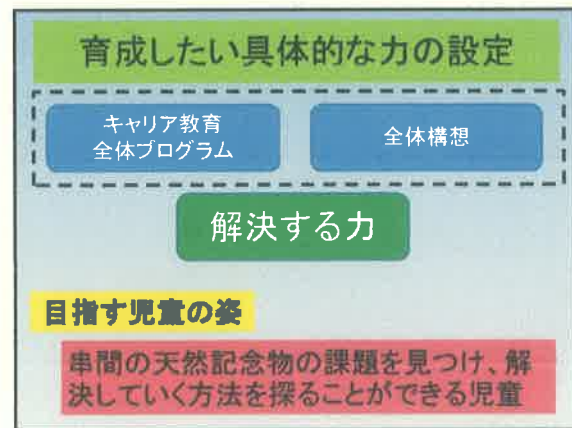
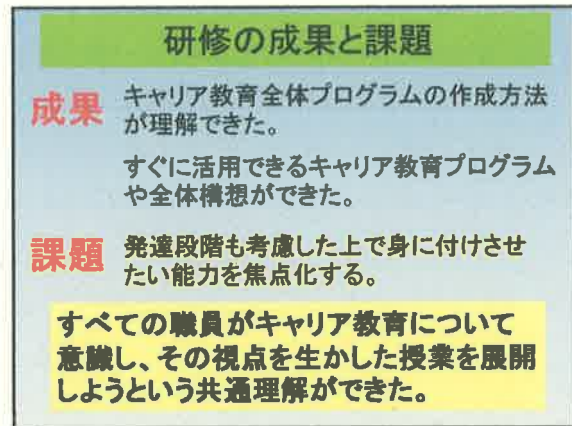
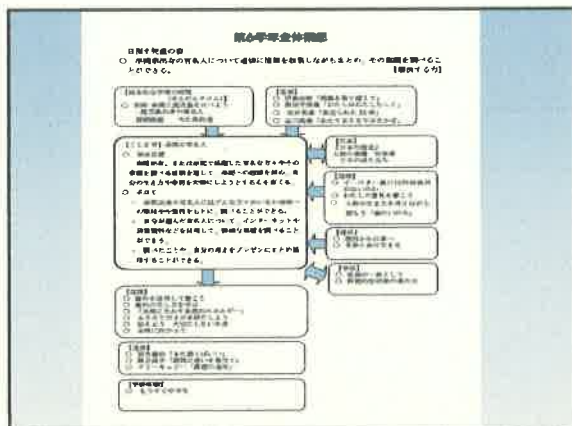
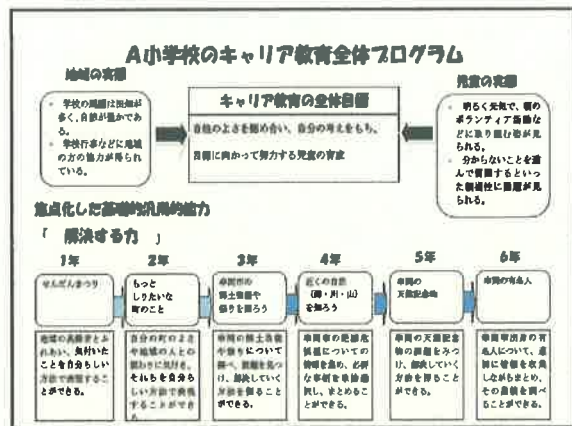
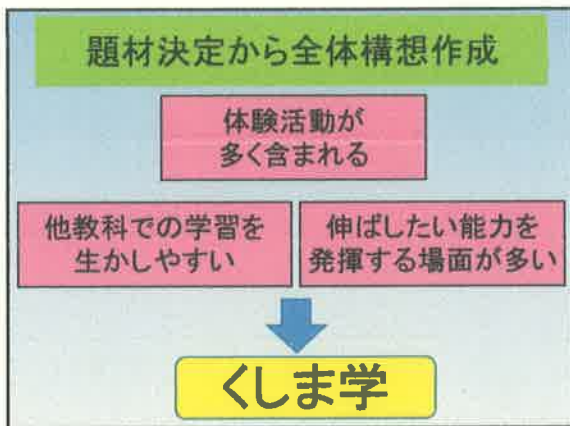
4つの能力結果

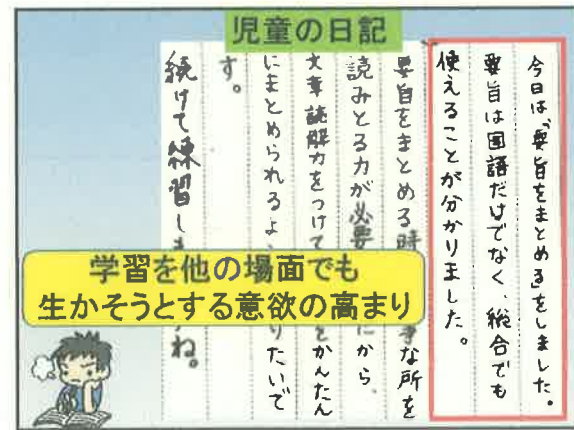
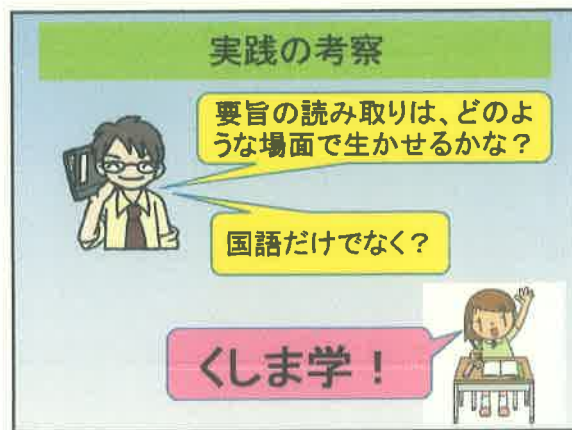
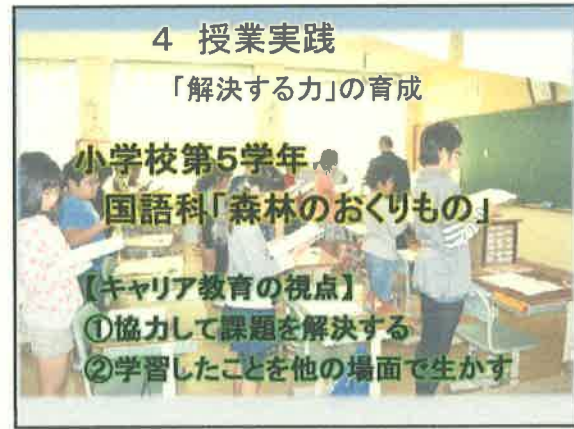
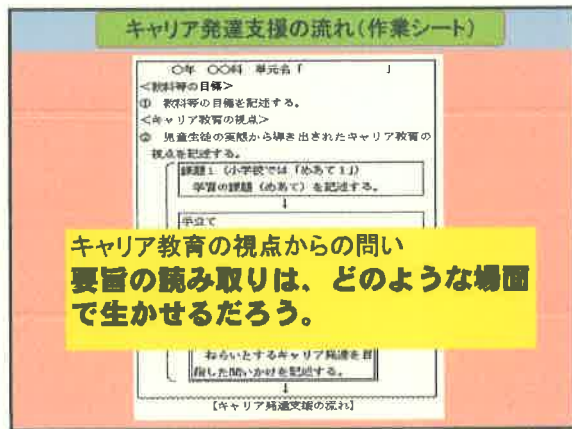
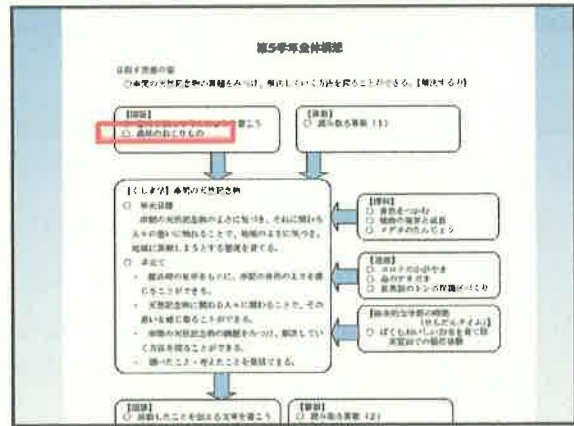
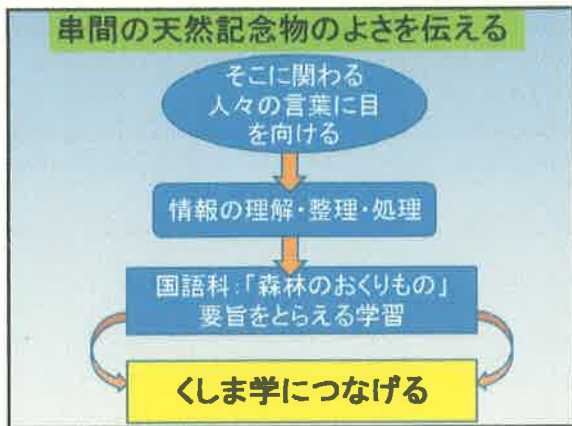
学年	基礎的・汎用的能力	基礎的・汎用的能力	基礎的・汎用的能力	基礎的・汎用的能力
1年	22	27	21	29
2年	19	24	22	28
3年	22	24	22	24

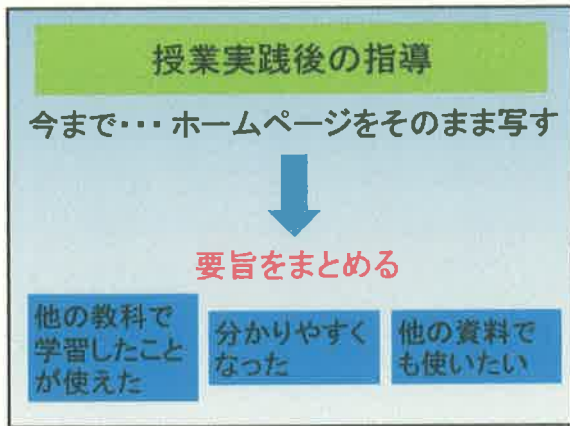
伸ばしたい能力

解決する力
伸ばしたい能力



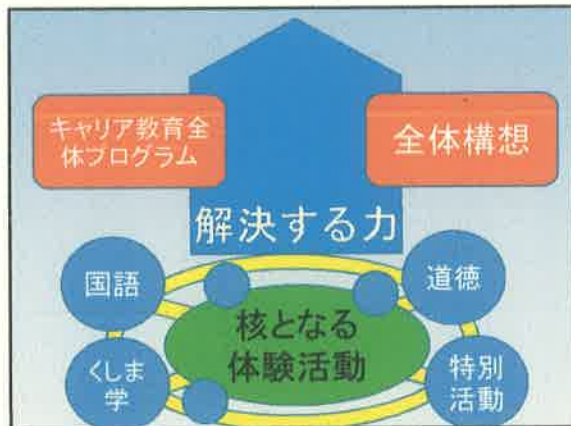






体験活動(くしま学)後の感想

これまでは、インターネットで調べたことをそのまま写すが、印刷するがただけで、これからは、調べたことを要旨をまとめて、発表したいです。要旨をまとめるのも、分かりやすくなると思うので、これからも使いたいです。



- 全体の成果と課題**
- 成果**
- 学校生活アンケートの実施・分析
→課題の具体的な把握
 - キャリア教育担当者の研修会を実施
→各校でのキャリア教育の推進
 - 授業実践
→児童・生徒のキャリア発達の促進

- 課題**
- 学校間で情報を共有しながら、よりよいキャリア教育全体プログラムを目指す。
 - 児童・生徒が日々の授業でどのように変容したかについて把握する、キャリア教育の評価の仕方とその生かし方について研究を深める。

